

画 情 舞 霜

2006年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

計

義

講

科 目 名			
コース演習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	上 野 勝 男

**【講義概要・学習目標】**

演習の課題は、大きく分けて2つです。

- (1) 大学生生活のビギナーに必要なことをできるだけスムーズに身につけること。
- (2) 「中国ビジネス」のキャリアを上げていくために、どんな知識をどのような段階・手順をふんで身につけていったらよいか、共に議論しながら考えていくということ、です。

**【授業計画】**

最初の授業で、上記の2つの課題に沿った年間の授業計画を示しますので、よく注意してください。

**【成績評価の方法】**

授業への出席、課題レポートなどの成績を総合的に評価しておこないます。

**【参考文献】**

随時示します。

科 目 名			
コース中国語 I A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	小 林 和 代

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語と基本的な文法項目を学習し、中国語の挨拶、応答表現や簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて入門段階における文法項目、それを用いて簡単な中国語での作文できるようになることを目指す。入門レベルの中国語を習得することを目指す。E27

**【授業計画】**

1 発音、声調      2 人称代詞      3 <是>の文、指示代詞      4 数字、疑問文      5 一般動詞の文      6 動詞<有><在>      7 連動文、付加疑問文

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度などを総合的に評価する。

**【テキスト】**

(改訂版)『中国語123』竹島金吾・児野通子 白水社

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』小学館 または 電子辞書

か  
行

科 目 名			
コース中国語 I B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期	1単位	ヤン 楊 ジェイ 潔

**【講義概要・学習目標】**

中国語の本格的・実践的な語彙力を身につけることが目標である。中国語と日本語は漢字という共通の媒体を通して古くからつながっているのだから、有効に活かしてもらいたい。

- (1) ビジネスの日常で幅広く使える単語。
- (2) ビジネスの現場で使える言葉、フレーズ。

**【授業計画】**

PART 1～3 発音、文法などの基礎学習及び基本的なビジネス会話の学習

**【成績評価の方法】**

出席と毎時間の質問、試験を統合的に勘案値する。

**【テキスト】**

金丸健二著『いちばん役立つビジネス中国語会話』（池田書店、2005年）

**【参考文献】**

ゼミ時に適宜指示する予定

**【備考】**

積極的に授業に取り組み、予習復習を必ず行ってください。  
2年次終了時まで中国語検定3級合格を目的とする。

科 目 名			
コース中国語 II A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	小 林 和 代

**【講義概要・学習目標】**

正しい発音を身につけ、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法項目を学習し、中国語での簡単な会話ができるようになることを目指す。合わせて初級段階における文法項目を学習し、それを用いて簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。初級レベルの中国語を習得することを目指す。

**【授業計画】**

1 形容詞述語文 2 方向補語、様態補語 3 可能補語、助動詞<会><能><可以> 4 結果補語、前置詞 5 選択疑問文、過去の経験、完了 6 存現文、進行形、持続形 7 使役文、受身文、感嘆文、接続詞

**【成績評価の方法】**

定期試験と授業内での小テスト、発表、学習態度などを総合的に評価する。

**【テキスト】**

（改訂版）『中国語123』竹島金吾・児野通子 白水社

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』小学館 または 電子辞書

科 目 名			
コース中国語ⅡB			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	1単位	ヤン 楊 ジェイ 潔

**【講義概要・学習目標】**

中国語の本格的・実践的な語彙力を身につけることが目標である。中国語と日本語は漢字という共通の媒体を通して古くからつながっているのだから、有効に活かしてもらいたい。

- (1) ビジネスの日常で幅広く使える単語。
- (2) ビジネスの現場で使える言葉、フレーズ。

**【授業計画】**

PART 4～6 社交、情報交換、生活などの会話の学習、ビジネス会話の学習

**【成績評価の方法】**

出席と毎時間の質問、試験を総合的に勘案する。

**【テキスト】**

金丸健二著『いちばん役立つビジネス中国語会話』（池田書店、2005年）

**【参考文献】**

ゼミ時に適宜指示する予定

**【備考】**

積極的に授業に取り組み、予習復習を必ず行って下さい。  
2年次終了時まで中国語検定3級合格を目的とする。

科 目 名			
国際会計論 [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	柴 理梨亜

**【講義概要・学習目標】**

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では会計もその影響に対応していかなければならない。1973年に日本も参加して発足した国際会計基準委員会が、現代のニーズに対応するためにその組織改革を実施した。そして、グローバル・スタンダードを目指す国際財務報告基準は世界中で認識されるようになってきた。

日本でも民間の会計基準設定機関「企業会計基準委員会（ASBJ）」が設置され、2005年から国際財務報告基準との調和化または統合化に向けた協議が開始される。

本講義では、グローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準とその歩みについて学ぶことに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになることも目的である。

受講するに当たって、簿記と会計の基礎知識が必要。

**【授業計画】**

1. 国際会計
2. 国際会計基準委員会とその改革
3. IOSCOと会計基準のグローバル・スタンダード
4. 国際財務報告基準がめざすもの
5. 基準ができるまでの流れ
6. 主要な国際財務報告基準
7. 日本の基準と比較して
8. 英文財務諸表を読む

**【成績評価の方法】**

出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。

**【テキスト】**

授業中にプリントを配布

**【参考文献】**

中央青山監査法人（編）「国際会計基準なるほどQ&A知っておきたい102のポイント」中央経済社

徳賀芳弘（著）「国際会計論相違と調和」中央経済社

飯田信夫（著）国際会計教育協会（編）「国際財務報告基準（IFRS）入門日本基準との違いをみる」財経詳報社

西川郁生（監修）JUSCPA国際会計基準専門部会（著）「よくわかる国際会計基準」IAS第2版、中央経済社

科 目 名			
<b>国際機構論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	軽 部 恵 子

#### 【講義概要・学習目標】

この講義では国際機構の成り立ちと仕組みについて、国連を中心に勉強します。武力紛争、大量破壊兵器、貧困、環境など世界共通の問題を解決するのに、国連を中心とした国際協力は欠かせません。国連について知りたい人、国際問題に強くなりたい人など、意欲的な学生を待っています。

国際機構論では、大学生なら誰もが持つべき世界史の基礎的知識を確認しながら講義を進めます。したがって、秋学期に国際法を履修する人は、春学期の国際機構論から履修するよう強くすすめます。国際機構論と国際法の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際機構に関連する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムや国連ホームページ（HP）も教材として積極的に使用します。

#### 【授業計画】

1. 国際機構とは何か：「国際」の意味、国際機構の定義
2. ネーション・ステートの成立と国際機構の萌芽：宗教改革、三十年戦争、フランス革命、ナポレオン戦争、ウィーン会議、ウィーン体制、赤十字国際委員会、ハーグ平和会議、国際行政連合
3. 第一次世界大戦と国際連盟の設立：ウィルソン大統領の「14カ条」、パリ講和会議、国際連盟規約 他
4. 第二次世界大戦と国際連合の設立：ダンバートン・オークス会議、ヤルタ会談、サンフランシスコ会議 他
5. 国連の目的と仕組み：国連憲章、総会、安保理、経済社会理事會、信託統治理事会、事務局、国際司法裁判所（ICJ）、専門機関、NGO、国連HP実習
6. 国際の平和と安全の維持：紛争の平和的解決、拒否権、幻の「国連軍」、平和維持活動、軍縮、朝鮮戦争、湾岸危機と湾岸戦争、アメリカ同時多発テロ、イラク戦争 他
7. その他：国連改革、経済・社会・人権・人道問題 他

#### 【成績評価の方法】

学期末試験（2006年7月）

※ 教室で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。

#### 【テキスト】

- ①水村光男監修 『この「戦い」が世界史を変えた』 青春出版社 2003年
- ②国連広報局編 『国際連合の基礎知識』増補改訂第7版、世界の動き社 2005年
- ③教員作成の資料（配布予定は随時掲示されますので、常に掲示板を見て下さい）

#### 【参考文献】

- 国際法のページも見て下さい —
- ・国連広報局編『創立50周年記念 国連年鑑特別号：国連 半世紀の軌跡』中央大学出版部 1997年
  - ・横田洋三編『国連による平和と安全の維持：解説と資料』国際書院 2000年
  - ・白井久和、馬橋憲男編『新しい国連』有信堂高文社 2004年
  - ・外務省外務報道官編『世界の国一覽表』世界の動き社 年刊
  - ・勝野正恒、二村克彦編『国際公務員をめざす若者へ：先輩からのメッセージ』国際書院 2005年
  - ・川鍋道子『国際機関資料検索ガイド』東信堂 2003年
  - ・河辺一郎『国連政策』国際公共政策叢書No. 20 日本経済評論社 2004年
  - ・色摩力夫『国際連合という神話』PHP研究所 2001年
  - ・高井晋『国連PKOと平和協力法』真正書籍 1995年
  - ・松井芳郎『湾岸戦争と国際連合』日本評論社 1993年
  - ・三上貴教編『映画で学ぶ国際関係』法律文化社 2005年
  - ・最上俊樹『いま平和とは』日本放送協会 2004年
  - ・最上俊樹『国連とアメリカ』岩波書店 2005年
  - ・吉田康彦『国連改革』集英社 2003年
  - ・吉田康彦『図解国連のしくみ』日本実業出版社 1995年

- ・まがいまさこ、堀洋子『もう一度学びたい世界の歴史』西東社 2005年
- ・宮越俊光『早わかりキリスト教』日本実業出版社 2005年
- ・渡辺和子監修『もう一度学びたい世界の宗教』西東社 2005年
- ・加藤雅彦『図説ヨーロッパの王朝』河出書房新社 2005年
- ・鈴木晟『面白いほどよくわかる世界の王室』日本文芸社 2004年

#### 【備考】

履修登録する前に、教員作成の「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。

<02～04生対象>

共通自由科目として、J生対象外

J生は学科教育科目

科 目 名			
<b>国際金融論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	一ノ瀬 篤

**【講義概要・学習目標】**

国際収支および為替相場についての基礎知識を身につけることが目標であり、講義の内容でもある。制度、最近の歴史についての知識を中心に説明する。面倒な数学的考察はしない。ほぼ、「1週間に1章」のペースで講義するが、多少のズレは見込まざるを得ない。

**【授業計画】**

- (1) 円高とは何か
- (2) 円高になるとなぜ経済界は騒ぐのか
- (3) 変動相場制とは何か
- (4) ニクソン・ショックとはなにか
- (5) プレトン・ウッズ体制とは何か
- (6) 金本位制とは何か
- (7) 貿易と為替相場はどんな関係があるのか  
中間試験
- (8) 経常収支とは何か
- (9) 日本の対外投資は為替相場とどのように関係するのか
- (10) 資本収支とは何か
- (11) 結局、国際収支とは何か
- (12) 為替相場はどのようにして決定されるのか
- (13) 円の国際化とはどういうことか

**【成績評価の方法】**

中間試験と期末試験の双方を均分に評価。中間試験を受験できない場合は、必ずあらかじめ届けを出すこと。それがないと、中間試験の追試、期末試験は受けられない。

**【参考文献】**

講義は毎回配布するレジメに基づいて行う。教科書は用いないが、秦忠夫・本田敬吉『国際金融のしくみ』（有斐閣）は講義理解に非常に役立つので、保有を勧めたい。

科 目 名			
<b>国際経営論 [2]</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤原 照明

**【講義概要・学習目標】**

益々グローバル化する現環境下、グローバルビジネスは実際にどのような方向に動いているのか、日本企業の多国籍企業の現状と今後の方向に付き国際経営とビジネスの現場経験及び日々変化する国際情勢を交えてその実態を見てゆく。参考書、日々の新聞およびホームページを参考に企業の取る国際戦略を把握、理解し同時に分析することにより、国際経営・国籍企業の実態を理解する。

**【授業計画】**

- <国際経営序論>
1. 国際ビジネスと国際経営の歴史
  2. 日本の経済成長とその基盤となった国際関係
  3. 国際ビジネスの推移と規模：貿易と投資
- <国際ビジネス環境について>
4. GATTからWTOへの動きFTA/REP/EPAへの動きについて
  5. 世界のFTA/EPA及び日本のFTAの現状について
  6. 国際ビジネスとリスク・マネジメント（カントリーリスク / 為替リスク）
  7. 異文化理解の重要性と国際経営
  8. 原油確保とイスラム原理主義
- <国際経営戦略>
9. 海外進出のパターン
  10. 直接投資と国際分業
  11. グローバル経営戦略
  12. 国際マーケティング
  13. BRICs（および巨大市場中国と日本）
- <まとめ>
14. 世界の多国籍企業と日本企業

**【成績評価の方法】**

期末テスト、出席及び受講態度

**【参考文献】**

伊藤元重著『グローバル経済の本質』ダイヤモンド社  
高橋克秀著『グローバル・エコノミー』東洋経済新報社  
久保広正著『貿易入門』日本経済新聞社  
根本孝他編『国際経営を学ぶ人のために』世界思想社

科 目 名			
<b>国際経済論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	モグベル ザファル Moghbel Zafar

**【講義概要・学習目標】**

国際経済を「ヒト・モノ・カネの国境を越えての移動」と規定すると、本講義では「モノの移動」（つまり貿易）を中心とした理論体系の基礎について学ぶ。そこに登場する国際貿易の理論は、過去およそ250年にわたり次のような問題を提起しつづけている。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こり、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易をもたらす利益はどのように分配されるのか。自由貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を理論に主眼をおいて解説する。

**【授業計画】**

- I. イントロダクション：貿易と文明の歩み
- II. 国際貿易の理論
  1. リカードの比較生産費説
  2. 要素賦存とヘクシャー・オリーソン定理
  3. その他の貿易理論
- III. 貿易政策
  1. 関税効果
  2. 保護主義と自由貿易の諸問題
  3. 輸入代替と輸出志向
- IV. 国際収支と貿易不均衡の調整
  1. アプゾープション・アプローチ
  2. 弾力性アプローチ
  3. J・カーブ効果
- V. 外国為替と貿易
  1. 外国為替の原理
  2. 為替相場制度とその選択

**【成績評価の方法】**

期末試験の結果を主とするが、講義中に課す複数回のコメント提出をも参考とする。

**【テキスト】**

澤田康幸「基礎コース・国際経済学」 新世社

**【参考文献】**

講義中に適宜指示・資料配布する。

科 目 名			
<b>国際社会福祉論 [2]</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

主に開発途上国と呼ばれる国々における障害者問題、貧困問題、人権問題、開発問題等について、その現状や国の政策、民間による国際協力・NGO活動について理解を深め、世界的な視野で国際社会福祉の枠組みについて理解を深める。同時に、海外における諸問題から学ぶことを通して、日本との関わりや我々一人一人にできることは何かを探る。

**【授業計画】**

以下の内容を中心に授業をすすめていきます。

- (1) 国際社会福祉という概念について
- (2) 開発途上国における現状
- (3) それぞれの国が抱える国際的な福祉問題とその特徴
- (4) 先進国、途上国の福祉政策の比較
- (5) 具体的な解決、取り組み（各種事例紹介）
- (6) 国際機関、NGOの役割

注1) 「国際」ということから英文の資料やデータを読み理解することが求められます。

注2) 参加型学習（ワークショップなど）を行うことがあるため積極的に授業へ参加する態度が求められます。

注3) フィールドワーク(国内)に出掛けることがあります(予定)。

**【成績評価の方法】**

- ①出席
- ②課題レポート
- ③授業への参加／貢献度
- ④試験

以上により、総合的に評価する。

**【テキスト】**

特に指定しない。

毎時、テーマに沿ったレジュメ、資料を配布する。

※その他、英語の辞書を準備してください。

**【参考文献】**

New Internationalist No. 384 「Disability in the Majority World」 November 2005

その他、適時紹介します。

**【備考】**

<02~05生>

共通自由科目として、SW生対象外

SW生は学科教育科目



科 目 名			
国際政治史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	鈴木博信

**【講義概要・学習目標】**

「国際政治史」を、「冷戦史」、つまり第2次大戦終結の1945年からソ連の崩壊・消滅した1991年までの、米ソ両大国がしのぎを削って対決しあったものの、直接の、熱い軍事衝突だけは回避しつづけた「冷戦の時代」に絞ってとりあげます。いわば「冷戦史わしづかみ」がテーマです。

大戦中、協力して共通の敵ヒトラー・ドイツと大日本帝国にあたった米ソ両国は、日独両国が倒れて戦争がおわるが早いか、核兵器で身を固めて対決しあう天敵となり、世界中を緊張と対立に巻き込んできましたが、1991年、一方のソ連がくずおれるように崩壊した結果、「冷戦」はだしぬけに終わりました。

以来15年、一ソ連共産党政治局の議事録や首脳同志の会話メモなど、権力の奥の院にかくされていた機密資料も大幅に公開され、「なに」が「なぜ」起きたのかについて、かなりのことが語りうる状況になってきました。この状況をふまえて冷戦史の骨格に迫ってみたいとかがえます。

**【授業計画】**

1. 「猜疑心が、恐怖が、もどってきた」—第2戦線—「原爆」誕生—「封じこめ」政策—「トルーマン・ドクトリン」・「マーシャル・プラン」—チェコのクーデタ、ユーゴの離反、ベルリン封鎖—朝鮮半島に「熱い戦争」—スターリン去る
2. 「フルシチョフの大ばくち—世界が息をひそめた13日間」
3. 「共産党一党が所有する国家 対 権力者・金力者・皆の衆が所有する国家」「命令経済 対 市場経済」
4. 「わが道を行きたい国々、集団ふえる」
5. 「相手がベトナム戦争、ウォーターゲートともたつく間に腕力だけは追いついた」
6. 「冷戦の幕引き役 続々登場—先導役は2人のポーランド人：ローマ法王と失業中の電気工；そしてゴルビーが、レーガンが、…」
7. 「冷戦の勝利者はだれか、なにか」

**【成績評価の方法】**

- ①必要に応じて課す小レポート
- ②期末の大レポート（または試験）

**【テキスト】**

特定せず、必要に応じて指示します。

**【参考文献】**

松岡 完ほか『冷戦史』（同文館出版）、田中正彦『新しい中世』（日経ビジネス文庫）  
 仲 見『ボックス・アメリカーナの転回—ジャーナリストのみた現代史』（岩波書店）  
 アダム・ウラム（鈴木博信訳）『膨脹と共存—ソヴェト外交史』全3巻（サイマル出版会）、高坂正堯『平和と危機の構造』（NHK出版）、J.L.GADDIS: The Cold War-The New History- (NY: The Penguin Press, 2005) など多数

科 目 名			
国際政治事情研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松村昌廣

**【講義概要・学習目標】**

政治学、社会学、経済学など、社会科学の基礎をよく理解した、3・4年生を念頭に講義を行う。

この講義では発展途上世界を比較分析するための基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するため、はじめに初歩的な理論的考察を行い、その後、いくつかの重要なケース・スタディーに取り組む。

しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、この「講義計画」にあるように、大きく分けて3つのテーマを取り扱うこととする。この講義により、発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させたい。

ビデオや資料を多用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。

**【授業計画】**

1. 総論
  - 1) 国際関係論と地域研究
  - 2) システム論的アプローチ
  - 3) 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」
2. 各論
  - 1) 民族紛争
  - 2) 国際テロ・アフガン問題
  - 3) 東アジア
    - (1) 朝鮮民主主義人民共和国
    - (2) 中華人民共和国
    - (3) 日本
3. 結論 「ポスト冷戦」後の地域研究

**【成績評価の方法】**

Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成  
 B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける  
 毎回出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

**【テキスト】**

松村昌廣『激動する米国覇権』現代図書、2005年。

テストとレポートの参考資料となるので履修者は入手すること。

**【参考文献】**

Aを目指す学生・・・講師の指示に従い研究レポートを作成  
 B・Cを目指す学生・・・通常の学年末試験を受ける  
 毎回出欠をとり、最低でも8割の出席率がない者には単位を与えない。

**【備考】**

<02~04生>  
 共通自由科目として、J生対象外  
 J生は学科教育科目

科 目 名			
<b>国際法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	軽 部 恵 子

#### 【講義概要・学習目標】

国際法がわかると、新聞やテレビの国際ニュースがわかります。それは、国際法が国家の行動を規律する世界共通のルールだからです。この講義では国際法の基礎を学びます。

国際法の勉強には世界史の基礎的知識が必要不可欠です。春学期の国際機構論では、国際法・国際機構論の視点から世界史上の主なできごとを取り上げつつ、講義を進めます。秋学期に国際法を履修する人は、春学期の国際機構論を先に履修するか、高校程度の世界史を予め自分で勉強して下さい。国際法と国際機構論の導入部分や取り上げる事例は似ていますが、両者は全く別の科目です。

国際法に関連する重大ニュースは、講義予定外でも随時取り上げます。また、各種ドキュメンタリー・フィルムやホームページも教材として積極的に使用します。

#### 【授業計画】

1. 国際法とは何か：「国」と「国際」の意味、合意秩序 他
2. 国際法の歴史：ウェストファリア条約、グロチウス『戦争と平和の法』、ハーグ平和会議、2つの世界大戦 他
3. 国際法の基本原則：「合意は拘束する」、「合意は第三者を害しも益しもせず」、一元論、二元論、新二元論 他
4. 国際法の法源：条約、慣習法、判例、強行規範
5. 国際法の主体：国家、国際機構、人民、個人
6. 国家：国家の要件、国家の基本的権利と義務、主権と管轄権、国家責任、外交的保護、国籍の意味、国家承認と政府承認、国家承継、外交使節と外交特権、領事と領事特権
7. 領域：領域の得喪、特殊な領域、海の国際法、空の国際法
8. 条約：条約案の交渉、署名、批准、加入、改正、終了、廃棄、無効、留保、条約の承継 他
9. 戦争と平和：紛争の平和的解決、武力紛争の規制、戦争の違法化、自衛権、軍縮、安全保障 他
10. その他：経済、社会、人権、人道問題

#### 【成績評価の方法】

学期末試験（2007年1月）

※ 教室で出席票を配布するのは、受講生が講義への感想や質問、要望を書くため、いわゆる「出席点」にはなりません。

#### 【テキスト】

- ①『国際条約集2006』有斐閣 2006年
- ②教員作成の資料（配布予定は随時掲示されますので、常に掲示板を見て下さい）

#### 【参考文献】

- 国際機構論のページも見て下さい —
- ・国際法学会編『国際関係法辞典』第2版 三省堂 2005年
  - ・横田洋三編『国際法入門』第2版 有斐閣 2005年
  - ・大沼保昭編『資料で読み解く国際法』第2版 全2巻 東信堂 2002年
  - ・青木裕司『知識ゼロからの現代史入門』幻冬舎 2002年
  - ・池上彰『そうだったのか！アメリカ』集英社 2005年
  - ・池上彰『そうだったのか！現代史』集英社 2000年
  - ・池上彰『そうだったのか！現代史パート2』集英社 2003年
  - ・池上彰『そうだったのか！日本現代史』集英社 2001年
  - ・加藤隆一『一神教の誕生：ユダヤ教からキリスト教へ』講談社 2002年
  - ・門奈直樹『現代の戦争報道』岩波書店 2004年
  - ・久保田展弘『荒野の宗教・緑の宗教：報復から共存へ』PHP研究所 2004年
  - ・高尾利数他『世界の宗教総解説』改訂新版 自由国民社 2004年
  - ・西崎文子『アメリカ外交とは何か』岩波書店 2004年
  - ・野沢聡子『問題解決の交渉学』PHP研究所 2004年
  - ・松井芳郎『国際法から世界を見る』東信堂 第2版 2004年
  - ・国際地学協会『国旗と地図』国際地学協会 2004年
  - ・武光誠『世界地図から歴史を読む方法』河出書房新社 2001年
  - ・舟本弘毅監修『図説 地図とあらすじで読む聖書』青春出版社

2004年

#### 【備考】

- ①履修登録する前に、教員作成の「国際法・国際機構論を履修する皆さんへ」および「講義運営のルール」を必ず読んで下さい。
- ②秋学期の教科書販売期間内に条約集を購入しないと、その後出版社で在庫切れになる場合があります。条約集に掲載される条約や締約国一覧など各種データや参考資料は毎年変更されていますが、受講生が指定された版や出版社以外の条約集を使用することへの配慮はいっさいありません。

<02～04生>

共通自由科目として、J生対象外

J生は学科教育科目

科 目 名			
<b>国民経済計算論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	桂 昭 政

**【講義概要・学習目標】**

国民経済計算の知識はマクロ経済学の勉強のみならず、日本経済の動きを理解するうえで不可欠である。本講義では国民経済計算の基礎知識について学習するとともに、わが国の国民経済計算データを利用して日本経済の動向の把握をも行っていききたいと考えている。なお、理解を深めるためにデータのパソコン処理の実習をできるだけ行っていききたいと考えている。

**【授業計画】**

1. 日本の経済循環－生産、所得分配、蓄積の側面
2. 日本の経済循環－ストック（資産）の側面

**【成績評価の方法】**

学期末に行う試験結果を主とし、それに適時小テストを行い出席状況を加味して判定する。

**【テキスト】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

中村洋一『SNA統計入門』（日本経済新聞社）  
 鈴木多加史『日本経済分析（改訂版）』（東洋経済新報社）  
 桂昭政『福祉の国民経済計算－方法とシステム』（法律文化社）

科 目 名			
<b>コスト・マネジメント</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	坂 手 恭 介

**【講義概要・学習目標】**

まず、コストマネジメント手法の全体像を把握し、個別手法の理解に進む。マネジメント手法は経営環境、企業組織、市場特性、財務体質などの影響を強く受けるので、これらに対する理解力が求められる。同時に、会計全般の基礎力も必要になるが、トピックごとに簡単な入門的解説を加えて講義を進める。

**【授業計画】**

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) コストマネジメントの基礎知識  | (1回)  |
| 2) コストマネジメントと原価計算  | (2回)  |
| 3) 標準原価管 ①         | (3回)  |
| 4) 標準原価管理②         | (4回)  |
| 5) 標準原価管理③         | (5回)  |
| 6) CVP分析とコストマネジメント | (6回)  |
| 7) 原価改善 ①          | (7回)  |
| 8) 原価改善 ②          | (8回)  |
| 9) 原価企画            | (9回)  |
| 10) ライフサイクル・コストニング | (10回) |
| 11) ABC            | (11回) |
| 12) ABM            | (12回) |
| 13) 営業費のコストマネジメント  | (13回) |
| 14) フロンティア探訪       | (14回) |

**【成績評価の方法】**

出席を含め平常点が60%、期末テストが40%

**【テキスト】**

伊藤嘉博『コストマネジメント入門』日経文庫。

**【参考文献】**

講義のなかで指示する。

か  
行

科 目 名			
<b>コミュニケーション概論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	遠 山 淳

**【講義概要・学習目標】**

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。

人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。先年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。イラク戦争もまた同様であった。

氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報化、人間か。

**【授業計画】**

1. 言語の獲得と発達過程
2. 言語的コミュニケーション（1）：言語と思考様式
3. 認知科学としてのコミュニケーション
4. 言語的コミュニケーション（2）：言語と意味
5. 動物のコミュニケーション
6. ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7. メッセージとは何か：解剖とルール
8. 広告のコミュニケーション
9. 「うわさ話」について
10. 説得の技術
11. テレビ・ゲームのコミュニケーション
12. 異文化コミュニケーション

**【成績評価の方法】**

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

**【テキスト】**

橋元 良明編著『コミュニケーション学への招待』大修館書店、1997

**【参考文献】**

授業中に紹介する。

科 目 名			
<b>コミュニケーション論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

人間は一人では生きてゆけない。複数の人が寄り合ってさまざまな集団、社会を構成し、その中で生きている。人間とはまさに「人と人の関係」の中に生きる存在である。そこで人と人をつなぐもの、それがコミュニケーションである。しかしコミュニケーションについて考えるには、他者より先に、まず自分が自分をどのように認知しているかが問題になる。その上で、他者との関係が浮上する。またコミュニケーションはことばに限らない。「目は口ほどにものをいい」などといわれるが、身振り、手振りから始まって顔面表情や視線など、いわゆるノンバーバル・コミュニケーションの方がことば以上に用いられる。沈黙が語るところは奥深い。さらに話すこともさることながら、聴くことの重要性を知らなければならない。

当講義では、個人、対人文脈、そして集団文脈でのコミュニケーションについて、心理学の立場から考える。したがって心理学的コミュニケーション論、あるいは社会心理学的コミュニケーション論である。

**【授業計画】**

自己概念、知覚過程、自己開示と自己呈示、スピーキングとリスニング、対人相互作用と対人魅力、バーバル／ノンバーバル・コミュニケーションなど、日常の具体的出来事を取り上げながら、また各種実習によって自己理解をはかりながら、コミュニケーションの基本について考える。

さらにコミュニケーションを通してなされるリーダーシップや説得（態度変容）、あるいは小集団における人間関係のダイナミックスについても考える。あくまでも心理学に軸足を置いたコミュニケーション論、あるいは人間関係論である。

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【テキスト】**

西川一廉・小牧一裕著 2002 『コミュニケーションプロセス』二瓶社

**【参考文献】**

随時、指示する。

**【備考】**

<02～06生>

共通自由科目として、SS生は対象外

SS生は学科教育科目

科 目 名			
コンピュータ会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 春学期	2単位 2単位	安 井 一 浩

**【講義概要・学習目標】**

現在では経理作業にコンピュータは欠かせないものとなっています。この講義では経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習します。また単に操作だけではなく、その背景にある会計学、簿記の理論も学習します。さらに必要に応じて表計算ソフト等の活用方法も説明します。最終的には日常的な経理実務ができるようになることを目標とします。なお日本商工会議所簿記検定3級の内容を理解していることを前提とします。

**【授業計画】**

経理用ソフトの各種設定、現金出納帳、預金出納帳、売掛帳の記帳方法、伝票の作成方法を順次説明し実際に作成してもらいます。また講義の中で適宜、複式簿記の原理、帳簿組織の仕組みを説明します。なお講義は例題を中心に進める予定です。

**【成績評価の方法】**

出席回数、講義中の態度及び考査を総合的に考慮して評価します。

**【テキスト】**

特に使用しない。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	8月集中	2単位	北 條 仁 志

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータの発達に伴い、インターネットや電子メールによる情報伝達、ワープロによる文書作成、数値計算等、様々な目的に応じてコンピュータを利用する機会が増え、コンピュータの簡単な操作方法を理解することが必要不可欠な時代となった。

本講義では、パソコンの利用経験が少ない初心者を対象として、コンピュータの基礎的概念およびその操作方法について学習する。それらを身近な道具として利用し、インターネット上の様々な情報を活用できるための知識およびスキルを習得することを目標とする。

**【授業計画】**

以下の項目について講義・実習を行う。

1. コンピュータの基礎的概念
2. パソコンの操作方法
3. インターネット（電子メール、WWW）の活用
4. コンピュータリテラシー
5. ワープロによる文書作成
6. 表計算ソフトの基本的操作
7. プレゼンテーションソフトの基本的操作

**【成績評価の方法】**

講義時の課題および出席状況により総合的に評価する。

**【テキスト】**

桃山学院大学情報センター編 『ユーザーズガイド』

**【参考文献】**

よくわかるマスター IC3対策テキスト  
富士通オフィス機器株式会社／著作制作、FOM出版

か  
行

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2単位	出 澤 茂
03	秋学期	2単位	
04	春学期	2単位	
05	秋学期	2単位	
06	春学期	2単位	
07	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

調査・研究・執筆・発表に活かす「コンピューター利用技術」について、「基本」と「基本を理解するために有効な基礎」を学習する。

**【授業計画】**

1. ワードプロセッサ MS-Word による文書の作成と編集
2. 表計算ソフト MS-Excel による 表・グラフ・シミュレーション
3. Editor, 発表用, 統計解析用, 地理情報システムなどのソフトを紹介

**【成績評価の方法】**

1. 印刷出力作品（課題）の完成度
2. 出席など授業参加状況

**【テキスト】**

「コンピュータ利用 1：授業書」・・・授業初回に配布

**【参考文献】**

桃山学院大学 編 (2006). 「ユーザーズガイド」.  
相沢祐介 他 (2005). 「パソコンはじめの一步」. カットシステム  
日本エディタースクール 編 (2003). 「原稿編集のためのパソコン操作の基礎知識」.

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	春学期	2単位	岩 田 賢 造
09	秋学期	2単位	
10	春学期	2単位	
11	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータがグローバルにネットワークで結ばれ、官公庁・企業・学校から家庭まで広く利用される現代では、コンピュータのシステムダウンは、社会生活に多大な影響をもたらします。また、コンピュータを上手に利用できる人とそうでない人の情報格差は、想像以上に大きいものです。

講義では、学校生活で必要となるコンピュータ利用の基本を習得していただくとともに、レポート作成や発表に役立つインターネット、Word、Excel、PowerPointの基本を説明し、パソコンを使って実際に情報の収集や文書・グラフの作成を実習していただきます。

また、授業の始めに、ITや経済・社会の動向・ニュースなどについて話をいたします。

注意：この講義は、パソコン初心者が対象です。

**【授業計画】**

1. パソコンの構成とWindowsの基本操作
2. キーボード基本操作、文字入力・文字変換の基礎
3. インターネットの基本操作と検索エンジンの利用方法
4. 電子メールの基本操作と守るべきネチケットとセキュリティ
5. Wordの基本操作と文章作成演習
6. Excelの基本操作と表計算演習
7. Excelのデータ加工とグラフ作成
8. PowerPointの基本操作とプレゼン資料の作成演習

**【成績評価の方法】**

出席を重視します。講義回数の60%以上の出席と数回の課題作成提出による総合評価を行います。

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

**【テキスト】**

桃山学院大学計算機センター編集「ユーザーズガイド」2006年版と課題等プリントで配布します。

**【参考文献】**

「大学生のためのレポート・論文術」小笠原 喜康著 講談社現代新書  
「同 上 インターネット完全活用編」同 上

**【備考】**

この授業は、パソコン利用の未経験者を対象にしていますので、高校で情報の科目を履修した学生さんは、ご遠慮ください。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	春学期	2単位	河 合 勝 彦
13	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータの初心者を対象に

1. コンピュータの基本構成
2. Windows OSの基本操作
  - プログラムの起動、終了
  - ファイル、フォルダの操作
  - 文字の入力、コピー、カット、ペースト
3. インターネットの利用方法
  - 検索エンジンの利用
  - メール、その他
  - Webページの作成
4. オフィススイートの利用
  - ワープロの基礎
  - 表計算ソフトの基礎、
  - プレゼンテーションソフトの基礎

をオンハンズ（コンピュータを利用しながら）で講義します。

（注意）ある程度コンピュータを利用したことがある学生には、やさしすぎる、退屈な講義になるかもしれません。講義内容をよく読んでから登録を決めてください。

**【授業計画】**

1. コンピュータの基礎概念
2. ウィンドウズの基本操作1 プログラムの起動・終了
3. ウィンドウズの基本操作2 ファイル操作、文字入力
4. 電子メールの基本操作 Webメールの利用
5. 電子メールの基本操作 メールクライアントの利用
6. インターネットの利用1 サーチエンジンを用いた情報検索  
実習
7. インターネットの利用2 Webページの作成
8. インターネットの利用3 BlogとWiki
9. MS Wordによる文書作成 基本操作
10. MS Wordによる文書作成 マルチメディアの利用
11. MS Excelを用いた表計算処理の基礎
12. MS PowerPointによるプレゼンテーションの基礎

**【成績評価の方法】**

- 出席・授業態度 5割
  - 課題 5割
- で評価することを予定しています。

**【テキスト】**

桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』

**【参考文献】**

講義中に逐次紹介します。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	春学期	2単位	小 林 利 臣
15	秋学期	2単位	
16	春学期	2単位	
17	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

大学においては、卒業論文を書くにも、講義のレポートを作成するにも、コンピュータの利用が不可欠である。図書館をうまく利用しなければ効果的な学習ができないのと同様に、コンピュータをうまく使いこなせないと実のある大学生活を送ることができない。

就職後も企業においては、新入社員はコンピュータは使えると想定している。

未来の社会は（現在も既に）情報化社会であり、コンピュータを使えないと生活にも支障が出てくる。

本講義では、これらの「基礎（情報リテラシと呼ぶ）を形成」すべく、インターネットの閲覧、電子メールの送受信、表計算、文書作成などができるよう、実習を中心に学ぶ。

「情報リテラシ」も初歩から中等、高等がある。本講義は「初歩と中等」を織り交ぜて進めていく。

**【授業計画】**

1. Windowsの基礎、日本語入力（IME）
2. Windowsのファイルシステム
3. Internetの仕組み、WWWを閲覧する
4. 電子メールの仕組み、Webメールで送受信する
5. ネットワーク、メールを転送する
6. 表計算（Excel）の基本的な事項、集計表を作成する
7. Excelで複数表・グラフを作成する
8. Excelでデータベースを作成する
9. 文書作成（Word）の基本的な事項、レポートを作成する
10. Wordで大きな文書を作成する
11. プレゼンテーション（PowerPoint）の基本的な事項、概要紹介
12. 総合演習

**【成績評価の方法】**

講義時の課題・レポート、および期末試験で、評価する。

**【テキスト】**

桃山学院大学情報センター編：ユーザーズガイド（2005）

**【参考文献】**

特になし。

**【備考】**

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
18	春学期	2単位	崔 宇
19	秋学期	2単位	
20	春学期	2単位	
21	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

コンピュータは現代社会において重要な情報処理の道具として使われている。この講義では基本的な情報処理能力が必要とするコンピュータの基礎知識や操作方法の習得を学習目的とする。

1. コンピュータの基本構造やハードウェア、ソフトウェアなどコンピュータに関する基礎的な知識を身につける。
2. ワードプロ (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) などのアプリケーションソフトの使い方を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。
3. ホームページ作成やインターネットの利用法を習得する。

**【授業計画】**

1. コンピュータの基礎知識
2. Wordの操作：文書の作成、編集
3. Excelの操作：効率のよい表の作成、数式と関数、グラフ機能
4. PowerPointの操作：プレゼンテーション資料の作成
5. インターネットの仕組みとその活用
6. ホームページ作成

**【成績評価の方法】**

出席、レポート、講義時の課題により総合的に評価する。

**【テキスト】**

開講時に指定する。

**【参考文献】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
22	春学期	2単位	佐々木 あゆみ
23	秋学期	2単位	
24	春学期	2単位	
25	秋学期	2単位	
26	春学期	2単位	
27	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

情報化社会といわれる現在、コンピュータの発展には著しいものがある。特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータ利用の機会や必要性も、学習・研究、ビジネスでは普通のものとなり、さらにインターネットのようなネットワークの普及によって、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。

本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなすための基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりとしたペースでの反復学習を行う。

**【授業計画】**

1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要
2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習
3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）
4. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）
5. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）
6. データの概念と処理（データベース表計算ソフト）
7. コンピュータの可能性について

**【成績評価の方法】**

講義時の課題、レポート、出席により総合評価

**【テキスト】**

「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」  
桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布



科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
28	春学期	2単位	田 村 剛
29	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

一昔前であれば、ビジネスなどにおいて、コンピュータを利用できる人間はある程度重宝されたものであるが、最近ではコンピュータの発達に伴い、利用できて当たり前であり、逆にできなければ困るという状況になってきている。

本講義では、コンピュータをほとんど使った経験のない初心者を対象として、コンピュータの基礎を身につけるために、インターネット、電子メール、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本操作について学習する。

**【授業計画】**

1. コンピューターの基礎知識
2. コンピューターの基本操作とキーボード練習
3. インターネットによる情報検索
4. 電子メールの利用
5. ワードプロソフト (Word) の基本操作 (文章作成・編集など)
6. 表計算ソフト (Excel) の基本操作 (データ入力・分析方法など)
7. プレゼンテーションソフト (Power Point) の基本操作

**【成績評価の方法】**

出席状況、課題やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

**【テキスト】**

桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
30	春学期	2単位	初 瀬 慎 一
31	秋学期	2単位	
32	春学期	2単位	
33	秋学期	2単位	
34	春学期	2単位	
35	秋学期	2単位	
36	春学期	2単位	
37	秋学期	2単位	
38	秋学期	2単位	

**【講義概要・学習目標】**

情報化社会は非常に速いテンポで進化し、われわれの生活にさまざまな影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化とインターネットの著しい発展に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会において基礎的な技能として要求されている。

授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的とし、パソコン実習を通じ、オフィスにおいての必須ツールである表計算やワープロ、プレゼンテーション、インターネットの利用等を学習する。

**【授業計画】**

1. パーソナルコンピュータの概要
2. コンピュータの基本操作
3. インターネットの活用とセキュリティ
4. 電子メールとネチケット
5. オフィスツール (表計算、ワープロ、プレゼンテーション) の活用
6. その他の情報活用法

**【成績評価の方法】**

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

**【テキスト】**

開講時に指示する。

**【参考文献】**

桃山学院大学情報センター (編)『ユーザーズガイド』

か  
行

科 目 名			
<b>コンピュータ利用 I</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
39	春学期	2単位	松 本 慎 平
40	秋学期	2単位	
41	春学期	2単位	
42	秋学期	2単位	

#### 【講義概要・学習目標】

現代の日常生活ではコンピュータの利用は必要不可欠であり、コンピュータの基本操作や情報処理の基本的考え方を正しく理解することが求められる。とりわけ、大学においては課題や実験データの整理を行うため、パーソナルコンピュータを使うことは当然であり、さらに社会では、インターネットや電子メール等の手段での情報のやりとり、意思決定のために様々な状況に応じて的確な情報を瞬時に検索することができる能力が求められる。そこで、コンピュータを利用していく上で最低限の知識となる「読み書きソロバン」に相当するコンピュータリテラシー能力を正しく習得することは非常に重要な課題となっている。

本講義ではコンピュータについて最低限必要な基礎知識を解説するとともに、実習によって自らの手で実践する事によって、講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータ利用技法を学ぶ。具体的には、講義のレポート課題をワードで作成できるようになる技能の習得、講師とメールで連絡をやりとりできる技能といった基本的な利用技能から、WWWを活用することでレポート作成の情報収集への利用させることができる一連のプロセスの実習、講義の内容をさらに掘り下げ、自らの知的好奇心の開拓にコンピュータを役立たせる方法の紹介などを行う予定であり、大学生活における学習効率を高めるための基本的なコンピュータの利用法の習得を目的としている。さらに、将来の職業人としての基礎的技術、マナーの習得の足掛かりになることを期待し、ITに関する様々な資料を毎回の講義で配布することにより、情報技術の進化によって引き起こされた激変する社会に乗り遅れることなく、あらゆる変化に柔軟に対応することができるよう、社会の変動に対して常にアンテナを伸ばす習慣を身につけることを期待している。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指している。

#### 【授業計画】

##### <到達目標>

1. コンピュータの基礎的概念を理解することができる。
2. ウィンドウズの基本操作を身につけることができる。
3. インターネットを使って情報検索ができる。
4. 電子メールを活用して情報のやりとりを行うことができる。
5. ワードによる文書の作成ができる。
6. 表計算の基本的操作を行う事ができる。
7. プレゼンテーションソフトの基本操作を資料作成を行う事ができる。
9. 目的設定、情報収集、引用、議論の展開といった、大学における講義レポート作成の基本的プロセスを学ぶことができる。
10. 情報セキュリティ、情報倫理を意識したコンピュータ利用ができるようになる。
11. 情報系の雑誌や書籍を講読する習慣を身につけることができる。
12. 情報技術の発展が引き起こす社会変化に興味を持つことができるようになる。

##### <授業内容>

01. ガイダンス。コンピュータの基礎概念の説明
02. ウィンドウズの基本操作の説明。
03. 半角文字練習、タイピング練習
04. 全角文字練習、MS-IMEの基本操作
05. ファイル操作
06. 電子メールの基本操作（受信、送信、返信など）
07. 電子メールの応用操作（アドレス帳、添付、転送設定など）
08. サーチエンジンを用いた情報検索
09. インターネットサービスの利用
10. HTML文書の作成

11. MS-Wordによる文書作成・基礎編
12. MS-Wordによる文書作成・応用編
13. MS-Excelを用いた表計算処理
14. MS-PowerPointを用いたプレゼンテーションの作成

##### <お願い事>

この授業は大学入学までコンピュータを利用する機会が殆どなかった初心者学生を対象としているので、コンピュータの基本操作をある程度心得ている学生にとっては、授業は退屈なだけで得るものはないかもしれません。したがって、経験者はなるべく履修を避けて他の授業を受講してください。そうでなければ、本来受講すべき初心者学生が受講できなかつたり、授業に経験者が入ることによって授業の進行が乱れたりする可能性があります。

##### 【成績評価の方法】

平常点（出席及び授業態度）：7割

課題点（毎回の授業で出題される課題）：3割

本演習は、本学で学ぶにあたり起点となる重要な科目である。毎回出席は原則であり必須である。遅刻（欠席扱いとする）や欠席のないように特に肝に命ずること。なお、やむを得ない理由で欠席する場合は、メール等で事前に連絡をしておけば、その回の欠席は十分に考慮することができる。ただし、欠席は自己責任であるため、欠席した回の学習内容は、次の授業までに各自必ず自習しておかなければならない。演習は原則としてWebページで提供されるオンラインテキストによって進められる。演習中に提示される課題の達成度、提出状況を重視する

##### 【テキスト】

- ・ 桃山学院大学情報センター（編）「ユーザーズガイド」
- ・ 毎回の授業で配布される資料

以上は、毎回の講義に必ず持参するよう、心掛けてください。

##### 【参考文献】

- 山本 喜一（著）、やさしいコンピュータ入門、岩波ジュニア新書（371）新書、岩波書店（2001/06）。
- 坂村 健（著）、痛快!コンピュータ学、集英社文庫、集英社（2002/03）。
- 山田 宏尚（著）、図解雑学 コンピュータのしくみ、図解雑学シリーズ 単行本、ナツメ社（2002/06）。
- 小関 祐二（著）、学生のためのコンピュータリテラシーとインターネット、単行本、共立出版（1999/10）。
- 村井 純（著）、インターネット、単行本、岩波新書（1995/12）。
- 村井 純（著）、インターネット2 一次世代への扉、単行本、岩波新書（1998/8）。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
43	春学期	2単位	藤 間 真

#### 【講義概要・学習目標】

コンピュータがグローバルにネットワークで結ばれ、官公庁・企業・学校から家庭まで広く利用される現代では、コンピュータのシステムダウンは、社会生活に多大な影響をもたらします。また、コンピュータを上手に利用できる人とそうでない人の情報格差は、想像以上に大きいものです。

講義では、学校生活で必要となるコンピュータ利用の基本を習得していただくとともに、レポート作成や発表に役立つインターネット、電子メール、Word、Excel、PowerPointの基本を説明し、パソコンを使って実際に情報の収集や文書・グラフの作成を実習していただきます。具体的には「授業計画」欄に示した事項を予定していますが、受講生の状況に応じて若干の変更がありえます。

授業の合間に、ITや経済・社会の動向・ニュースなどについて話をいたします。

尚、この講義は、パソコン初心者を対象にします。

#### 【授業計画】

1. パソコンの構成とWindowsの基本操作
2. キーボード基本操作、文字入力・文字変換の基礎
3. インターネットの基本操作と検索エンジンの利用方法
4. 電子メールの基本操作と守るべきネチケットとセキュリティ
5. Wordの基本操作と文章作成演習
6. Excelの基本操作と表計算演習
7. Excelのデータ加工とグラフ作成
8. PowerPointの基本操作とプレゼン資料の作成演習

#### 【成績評価の方法】

出席を重視します。講義回数の60%以上の出席と数回の課題作成提出による総合評価を行います。

キーボードによる文字入力練習などは、時間外に自習室で行っていただきます。

#### 【テキスト】

桃山学院大学計算機センター編集「ユーザーズガイド」とプリント配布

#### 【参考文献】

大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康著 講談社現代新書

同 上 「インターネット完全活用編」 同 上

#### 【備考】

本講義は、初心者向けの講義ですので、高校等でパソコンに関する実習を履修した人は受講しないでください。

科 目 名			
コンピュータ利用 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
44	秋学期	2単位	巖 圭 介

#### 【講義概要・学習目標】

この授業では、コンピュータを使って行われるもつとも基本的な作業のいくつかを、初心者を対象に実習する。大学生活の中で使わなければならない機会の多い作業に的を絞って、一通りのことができるようになるまで練習してもらおう。

同時に、インターネットの落とし穴やメールのエチケット、著作権などについても解説し、インターネット時代の身の守り方を知ってもらいたい。

大学生活の中でも、家庭でも、そしてもちろん就職してからも、コンピュータを使って作業する場面はますます増えてくる。「使えませんが」では済まない世の中だから、基礎だけでもしっかり固めておきたい。

#### 【授業計画】

下記の項目について実習を行う。

- ・コンピュータの基本
- ・日本語入力
- ・電子メール (Outlook Express)
- ・インターネットの利用 (Internet Explorer)
- ・ワードプロセッサ (MS Word)
- ・表計算 (MS Excel)
- ・プレゼンテーション (MS PowerPoint)

#### 【成績評価の方法】

出席状況と提出物、期末の実技テストによる。欠席4回で除籍する。

遅刻にも厳格に対処する。

#### 【テキスト】

桃山学院大学情報センター編「ユーザーズガイド」

(持っていない人は最初の授業で支給します)

#### 【備考】

1. この授業は初心者を対象としています。経験者が受講しても退屈なだけですし、経験者が入ることで、本来受講すべき初心者が受講できない事態も生じます。ある程度心得のある人は、なるべく他の授業を受けるようにして下さい。
2. コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばなりません。毎回出席することはもちろんですが、自由時間に自習する必要もあります。

科 目 名			
コンピュータ利用Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	藤 間 真

**【講義概要・学習目標】**

本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。

履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：

- ・情報センターの施設を用いた実習が主体となる。
- ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータにある程度慣れていないとハードな講義となる。
- ・少なくない自習課題を課す予定である。ある程度コンピュータに慣れているものに面白く感じられるような課題にする予定であるが、言い換えると初心者にはしんどい課題の連続となることも意味する。
- ・基本的には連絡は電子メールで行う。

**【授業計画】**

- ・具体的な計画は下欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。
- ・ホームページを作ってみる。
- ・プレゼンテーション・ソフト
- ・情報検索の基礎
- ・unixの基礎
- ・オブジェクト指向とJava

**【成績評価の方法】**

実習の提出物を中心に総合的に評価する。

**【テキスト】**

講義計画執筆時（2006年1月）現在検討中である。

**【参考文献】**

ユニバーサルHTML/XHTML、神崎正英著、毎日コミュニケーションズ  
 10日でおぼえるJava入門教室、丸の内とら著、翔泳社  
 改訂新版 初体験Java 丸の内とら著 技術評論社

**【備考】**

テキストの件も含め、適宜担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) で情報公開を行う。

科 目 名			
財政学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	藤 田 香

**【講義概要・学習目標】**

日本の財政事情（財政赤字）は歴史的にも国際比較に見ても、例を見ないほどの厳しい状況にある。

にもかかわらず、少子・高齢化社会の到来に向けた医療・福祉・年金改革や景気対策のための公共投資など財政の多様な機能が求められている。

また、経済のグローバリゼーション、地方分権改革や地球環境問題等に対応するかといった新たな課題に対する解決策が模索されている。

本講義は、財政の役割とその仕組み、財政をめぐる議論、日本の財政の歩み、諸外国の財政の要点等について、図表や事例を交えながら実施する予定である。

「財政」が持つ現代的な意味、問題を検討することから、皆さんの身の回りにある社会を見つめてみませんか。

**【授業計画】**

- I 財政についての基本問題
  - 1 現代社会と財政
  - 2 財政の役割と機能
  - 3 財政をめぐる議論
  - 4 財政の現状
- II 財政の仕組み
  - 1 日本の財政制度
  - 2 財政投融资制度
  - 3 国庫金制度
- III 平成18年度予算
- IV 日本財政の歩み
- V 欧米諸国の財政
- VI 今後の課題
  - 1 環境政策と財政
  - 2 高齢化社会と財政

**【成績評価の方法】**

レポート、期末試験等によって総合評価する。

必要に応じて確認テストを行う。

**【テキスト】**

なし

**【参考文献】**

講義の中で、適宜紹介する。

科 目 名			
<b>財務諸表論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	全 在 紋 <small>チヨシ ジェ ムン</small>

**【講義概要・学習目標】**

講義概要：企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成される。この講義を真剣に受講すれば、企業が作成するところの財務諸表の意味を「読み解く」力が養われる。

学習目標：① 1年次における商業簿記の学習内容を前提にして、3年次以降に履修する経営学部専門諸科目の内容が理解できるよう、財務会計における損益計算書・貸借対照表のポイントを理解する。

② 「企業の言語」としての〈会計〉の特性を理解する。

**【授業計画】**

- ① 制度会計論
- ② 貸借対照表論
- ③ 損益計算書論
- ④ キャッシュ・フロー計算書論
- ⑤ 安全性分析
- ⑥ 収益性分析
- ⑦ 成長性分析
- ⑧ 会計言語論
- ⑨ 国際会計論

**【成績評価の方法】**

原則として、学期中間試験と学期末試験との総合点で評価する。また、学期中にレポートを課した場合、充実した内容の提出者には加点評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者にも、別途加点評価する。

**【テキスト】**

全在紋作成のオリジナル・テキスト配布（分売）の予定

**【参考文献】**

全在紋著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年

**【備考】**

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科自由科目

科 目 名			
<b>産業考古学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	辻 洋一郎

**【講義概要・学習目標】**

産業考古学は、産業の歴史のなかで生まれ、活用され、そして消費されていった生産財・消費財を、歴史、文化、経済、地理などの各分野の観点から調べ・考えることでその思想を知る学問です。すなわち、既存の学問（産業史、技術史、経済史など）の方法論に準拠して展開される学際的な分野といえます。また、消えてゆきつつある産業遺産をどのように選別・収集・保存・活用するか、という実務的な問題も重要な論点で、博物館学の方法論や知識を駆使する必要があります。

今年度の講義では、前半で産業考古学の目的と現状を解説した後、産業考古学を理解するために必要不可欠な周辺の学問分野を概観します。後半では、産業遺産保護の現状と問題点に焦点を当てて解説します。

**【授業計画】**

※2006年度の講義では進捗と理解度を勘案して、期中で内容を変更する場合があります。

（以下順不同）

- 01) 産業考古学の目的と定義
- 02) 産業発展の歴史
- 03) 産業構造と産業の進歩
- 04) 技術進歩と産業の発展
- 05) 周辺学問分野の概要（①～⑧）
- 06) 周辺学問分野と産業考古学のかかわり
- 07) 産業遺産保護の目的と現状
- 08) 日本の産業遺産保護の現状（①～⑤）
- 09) 各国の産業遺産保護の現状（①～③）
- 10) 産業考古学の将来と問題点

**【成績評価の方法】**

各学期に、適宜レポート（合計3回程度）を課し、その評価で決定する。

**【テキスト】**

講義中に適宜指示する。

**【参考文献】**

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
<b>産業構造論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	義 永 忠 一

**【講義概要・学習目標】**

現代日本の産業をいくつかのテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。これらの講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、その方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。また講義中に、各業界が求める人材に関する質問等を行い、詳しい現状についてもお聞きします。

今年度のテーマ

1. 主要産業の動向
2. 産業の新たな動き
3. エネルギーと環境
4. 支援組織
5. 地域経済の動向

**【授業計画】**

- ・総論
- ・貿易
  
- ・自動車産業
- ・繊維産業
- ・情報産業
- ・金型産業
  
- ・知的財産権
- ・サブカルチャーから見た日本の産業構造の変化
  
- ・エネルギー産業（電力）
- ・エネルギー産業（ガス）
  
- ・公設試験研究所の役割
- ・コンサルタント・シンクタンク業務について
  
- ・中小企業金融
- ・外食産業
- ・ホテル業
- ・公共交通
- ・生鮮食品

（予定講義）

製造業を中心に、活躍されている中小企業経営者による講義

**【成績評価の方法】**

1年を数期に分け、各期最低1つ、各講師が出題したテーマについてレポートを作成してもらう。それらを総合して評価する。

**【テキスト】**

指定しません。

**【参考文献】**

その都度指示します。

**【備考】**

講師の都合で、予定が変更される場合があります。第1回目の講義で配布する日程表を確認してください。

科 目 名			
<b>産業社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

私たちの暮らしを支える経済社会、なかでもその中心に位置する雇用のあり方は、近年、大きく変化しています。それを象徴するのが、成果主義の導入、雇用の多様化、さらにはグローバルスタンダードにもとづく企業統治の再編です。この授業では、講義内容を大きく3つに分け、労働・職業の世界とその変化についての理解を図ります。最初に①企業活動の基底にある労働の管理、モチベーションといった労働をめぐるミクロの問題がこれまでどのように処理、理解されてきたのかを取りあげ、次いで②それとは対極にある社会の捉え方をめぐる議論について、産業社会学をめぐる多様な議論を紹介した上で、階層の固定化問題があらたに提起されている社会階層の問題を検討します。そして、最後に③「日本的」という言葉を冠して説明される日本の企業をめぐる問題を、その評価の変遷、生産システム、雇用慣行、昇進管理といった点に注目することで、考えます。

**【授業計画】**

- 1 企業と組織
- 2 組織の中の労働：管理とモチベーション
- 3 リーダーシップ
- 4 技術の革新と労働
- 5 産業社会学
- 6 産業社会の構造：社会階層を中心として
- 7 日本企業をめぐる評価の変遷
- 8 日本的生産システム
- 9 日本的雇用慣行とその変容
- 10 昇進・競争・能力観
- 11 変容する労働世界

**【成績評価の方法】**

学期末試験の成績で評価します

**【テキスト】**

使用しません。ただし、講義内容の概略（レジюме）を配布します。

**【参考文献】**

講義概要（レジюме）にて指示します。

科 目 名			
<b>産業心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

いま産業社会は大きく変わりつつある。そこで働く人々は何を目的に働くのか。何を喜びとして働くのか。好むと好まざるとにかかわらず、多くの勤労者の生活は職場(会社)を中心に営まれる。そこで起こるさまざまな出来事は、働く人々とその家族に大きく影響する。

ソフト化・サービス化、情報化、コンピュータ化、共働き化、職場の人間関係、技術革新と能力開発、人事制度と処遇、若年者と中高年齢者の雇用、職場のストレスとメンタルヘルス等々、そしてさらに最近では長時間労働化や非正規社員の増加など、産業組織は多様な問題を抱えている。人はこうした職場の中でどのように生きようとしているのか。さらに女性の労働力化が進む中で、仕事と家族のバランスはどのようにとられるのか。高齢化が進む中で、職場環境はどのように改善されなければならないのか。当講義では、このようにダイナミックに変化する労働環境と、そこで働く人々について、心理学の立場から考える。

**【授業計画】**

勤労者の生きがい、労働時間構造の変化と労働、女性労働・家族・企業社会、働く意欲、業績主義的人事管理、能力開発、職場の人間関係、産業ストレスとメンタルヘルスなど、いわゆる産業・組織心理学的諸問題について、各種調査結果や今日の出来事を例示しながら講じる。

**【成績評価の方法】**

成績評価は期末試験による。

**【テキスト】**

NIP研究会(編) 2000 『仕事とライフスタイルの心理学』 福村出版

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
<b>産業組織論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	田 中 悟

**【講義概要・学習目標】**

産業組織論の基礎的な理論の概説を通じて、産業の組織構造が経済に与える効果について考える。本講義では、ミクロ経済理論を応用することによって、産業の組織構造や企業間の相互依存関係がいかに企業の行動に影響を与え、これを通じて経済の成果(パフォーマンス)がどのように左右されるかを検討する。さらに、現実の産業組織構造の実態やそれに対して行われる公共政策(産業政策・規制政策・競争政策等)についての紹介を行い、産業の経済学についての理解を深める。

**【授業計画】**

講義はおおむね下記の章別構成にしたがって行う予定である。

- 序 産業組織論の対象と課題
- 第1章 競争と独占の経済理論
- 第2章 独占企業の行動
- 第3章 寡占市場の理論
- 第4章 寡占市場における企業の戦略的行動
- 第5章 イノベーションと産業組織
- 第6章 終章：公共政策(競争政策)の課題と内容

**【成績評価の方法】**

授業中に課す数回の小テストないしは宿題(30%)と定期試験の結果(70%)を総合して評価する。

**【テキスト】**

特に指定しないが、以下の参考文献が有益である。

**【参考文献】**

1. 長岡貞男・平尾由紀子(1998)『産業組織の経済学』(日本評論社)
2. 浅羽茂(2004)『経営戦略の経済学』(日本評論社)
3. 丸山雅祥(2005)『経営の経済学』(有斐閣)
4. 植草益他編(2002)『現代産業組織論』(NTT出版)
5. 後藤晃・鈴木興太郎(1999)『日本の競争政策』(東京大学出版会)
6. Cabral, L. M. B. (2000), Introduction to Industrial Organization, MIT Press.

こ  
行

科 目 名			
自然科学－数学入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	明 石 吉 三

**【講義概要・学習目標】**

本講義は、文科系学生諸君に対して、必要最小限の数学の基本を学んでもらうことを目指している。

なぜ数学を学ぶか様々な意見があろう。数学を利用するという観点から考えると、その効力は対象とする問題の記述の透明性と記述されたものに対する分析・設計力（予知能力）にあると思っている。

本講義では文系卒業生／学生として必要最小限の内容に限定する。具体的には、高校教育での数学に限定する。数学Ⅰ、数学A、数学B、数学Ⅱから選定して講義する。

数学力を養成するには、知識の記憶だけでは困難である。頭脳と手を動かすことが不可欠である。したがって、各講義の後半は練習問題を解く時間に当てる予定である。

**【授業計画】**

1. 数と式
2. 数列
3. 個数の処理
4. 順列と組合せ
5. 確率
6. 確率分布
7. その他

**【成績評価の方法】**

出席状況と試験の総合判断のより成績評価する。

講義ごとに練習問題を解いてもらう。したがって、毎講義ごとに出席をとることになる。

試験は3回ないし4回を予定している。

**【テキスト】**

特にありません。

高校時代の教科書、参考書を参考にして下さい。

**【備考】**

毎回出席が前提です。数学力の養成は、頭と手を使うことが不可欠です。やり遂げる自信のない方は受講はご遠慮ください。

科 目 名			
自然科学－生物学Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

バイオテクノロジーの台頭と環境問題への注目により、生物学は21世紀の社会でよくも悪くも中心的な位置を占めることになる。遺伝子や生態系に関する正しい理解がなければ、さまざまな社会問題に正しく対応し判断をくだすことは難しい。この時代に対応するためにも、生物というものの基本を正しく理解しておいてほしい。

生物の基本、それはすべての生物が37億年にわたる生命の進化の産物であるということ。進化という現象を抜きにして生物のいかなる側面も語ることはできない。にもかかわらず、現在の高校までの理科教育では進化をまともに扱うことがなく、結果として進化を正しく理解している者はきわめて少ない。

この授業では、進化とそのメカニズムの正しい理解を目標とする。その上で、進化を軸にして生命現象のいくつかの重要な側面について概説する。

**【授業計画】**

ときおり時事問題なども絡めながら、おおむね以下のテーマを扱う予定

- ・なぜ地球に生物がいるのか
- ・なぜ生物は進化するのか
- ・なぜ性があるのか
- ・なぜ利他的にふるまえるのか
- ・なぜ滅びゆく生物を守るのか

**【成績評価の方法】**

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）

**【テキスト】**

なし

**【参考文献】**

- 酒井聡樹ほか『生き物の進化ゲーム』共立出版 1999年  
 桑村哲生『生命の意味』裳華房 2001年  
 長谷川真理子『進化とはなんだろうか』岩波ジュニア新書 1999年  
 ワイナー『フィンチの嘴』早川書房 2001年  
 長谷川真理子『クジャクの雄はなぜ美しい？』紀伊國屋書店 1992年  
 ドーキンス『利己的な遺伝子』紀伊國屋書店 1991年



科 目 名			
思想－古代犬儒主義と世界市民主義			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	山 川 偉 也

**【講義概要・学習目標】**

本学の大学理念は「世界（の）市民」の養成を謳っている。「世界市民」という言葉の語源を求めて遡っていくと、古代犬儒主義にまでいたりつく。本講義は、「世界市民」の源流を尋ねるひとつの歴史的旅であるをご理解いただきたい。その旅は、本学の大学理念の自己同定を行うところの旅でもある。

**【授業計画】**

ディオゲネス・ラエルティオスの『ギリシア哲学者列伝』の紹介から始め、次第にギリシア思想のなかでの「犬儒主義」の伝統の詳細な説明に入っていく。シノペのディオゲネスの生活と思想の意義を明らかにしていく。そして、彼の唱えた「世界市民主義」の歴史的意義を明らかにしていく。

**【成績評価の方法】**

授業中に行う小テストならびに学期末に行う試験によって総合的に評価する。

**【テキスト】**

なし。

**【参考文献】**

ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝』岩波文庫（中巻）

科 目 名			
思想－諸子百家			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	林 宏 作

**【講義概要・学習目標】**

諸子百家とは、中国の春秋・戦国時代に現れた多くの思想家、またはその学派や学説に対する総称である。この講義では、諸子百家を生んだ時代や社会的背景から、儒・道・墨・名・法など諸家の学説の概要、さらに孔子・孟子・老子・荘子・墨子・韓非子など各学派の代表的思想家について論じ、中国古代思想を明らかにしたい。

**【授業計画】**

1. はじめに  
・ガイダンス ・授業計画について
2. 諸子百家を生んだ社会的背景
3. 諸子百家概説
4. 孔子について
5. 孟子について
6. 荀子について
7. 墨子について
8. 老子について
9. 荘子について
10. 韓非子について

**【成績評価の方法】**

中間試験・学期末の定期試験・毎回授業後のまとめ・授業への出席状況などにより、総合的に評価する。

**【テキスト】**

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

**【参考文献】**

参考文献は適時、紹介する。

科 目 名			
<b>思想－聖書研究</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	滝 澤 武 人

#### 【講義概要・学習目標】

キリスト教の正典である『聖書』、特に『旧約聖書』をできるだけ多く広く「読む」こと、それがこの講義の最大の目標です。旧約聖書とは一冊の本ではありません。そこには古代イスラエルの1000年間にわたるさまざまな時代に書かれたさまざまな文書が39巻選ばれ集められています。

それは人類全体にとってもっとも重要な知的遺産の一つであり、世界の古典中の古典と言えるでしょう。ユダヤ教・キリスト教・イスラム教という世界宗教は旧約聖書を土台として生まれたのです。ヨーロッパの中世・近代思想を理解するためにも、旧約聖書は不可欠の書物と言えるでしょう。

現代においてもなお、旧約聖書は宗教・思想・歴史・文学・美術などの分野に新鮮な光を投げかけています。世界市民にとっての「教養」としても、旧約聖書に親しむことがぜひ必要です。もちろん、大学の授業は学問的な研究を土台としますので、「信仰」の有無とはまったく関係なく、誰でもが受講することができます。

#### 【授業計画】

前半は、「創世記」と「出エジプト記」を中心に読みます。後半は、「詩篇」「ヨブ記」「雅歌」「コヘレトの言葉」などの文学作品や「イザヤ書」「エレミヤ書」などの預言書にできるだけ広く読んでもらうつもりです。

#### 【成績評価の方法】

試験（40点）・レポート（40点）・平常点（20点）の予定です。最初の授業時間に配点を公表説明しますので、必ず出席してください。

#### 【テキスト】

新共同訳『聖書』（日本聖書協会発行・約3400円・新約と旧約の両方を含んだもの）

『聖書』はかなり高価ですが、大学生が持っていた方がよい書物です。自分自身で「読む」ことが中心ですので、授業時間には必ず持参してください！ なお、すでに聖書を持っている人はそれで結構です。

#### 【参考文献】

阿刀田高『旧約聖書を知っていますか』（新潮文庫）  
池田裕『旧約聖書の世界』（岩波現代文庫）  
AERA MOOK『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）

科 目 名			
<b>視聴覚教育</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	冷 水 啓 子

#### 【講義概要・学習目標】

情報社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、衛星放送、ケーブル・テレビ、字幕番組、地上デジタル放送などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。

そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（インターネット利用および PowerPoint によるプレゼンテーション教材の企画・制作）を行う。

なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

#### 【授業計画】

- はじめに
- 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの発達
  - 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か
  - 視聴覚教育メディアの変遷
  - 活字・印刷物の利用：テキスト、絵本、児童書など
  - テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割
    - ①テレビと子ども
    - ②幼児教育番組
    - ③字幕や手話通訳つき番組
- コンピュータの発展と教育利用（コンピュータ実習を含む）
  - 1) コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響
  - 2) コンピュータの教育利用：CAI, CMI, eラーニング
  - 3) インターネットの利用
  - 4) コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成
  - 5) コンピュータ利用をめぐる教育・社会的諸問題
- 視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材制作
  - 1) 教育目標・内容の設定および制作手法の企画
  - 2) 資料集めおよび制作
  - 3) 作品の発表と講評
- 全体のまとめ

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

#### 【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中必要に応じてレポート課題を与える。学期末に、制作したプレゼンテーション教材および修了レポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

#### 【テキスト】

教科書は使用しない。

#### 【参考文献】

井上智義（編）『視聴覚メディアと教育方法』（北大路書房）  
教職課程研究会（編）『教職必修 教育の方法と技術』（実教出版）  
桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2006年度版）  
無藤 隆（編）『テレビと子どもの発達』（東京大学出版会）  
中島義明（著）『映像の心理学－マルチメディアの基礎－』（サイエンス社）  
（財）日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』

科 目 名			
<b>実務英語</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	井 口 良 樹

**【講義概要・学習目標】**

ビジネスの様々な現場で使用される英語をとりあげ、その活用事例を学び、国際社会で通用する英語の習得を目指す。

**【授業計画】**

現実に考えられる様々なビジネスの場面を想定し、そこで使用される英語表現を、テキストに基づき学習する。テキストにない分野については、必要に応じて別の教材を用意する。

**【成績評価の方法】**

日常の学習成果と口頭試問

**【テキスト】**

市川功二著『ビジネス英語』泉書房刊

科 目 名			
<b>児童サービス論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	清 水 昭 治

**【講義概要・学習目標】**

この科目は、図書館における“児童サービス論”です。図書館、特に、公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考えられており、赤ちゃん・幼児向けの絵本から、小学生、中学生までの幅広い本が準備されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書をささえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育がさけられる中で、図書館の必要性は、ますます増大します。その時、図書館利用が習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。

**【授業計画】**

1. オリエンテーション
2. 児童・こどものための図書館はどこにある？
3. 児童・こどものための図書館には何がある？
4. 児童・こどもとは何なのか？
5. 本を読むということとは？
6. 児童・こども図書館とは？
7. 児童・こども図書館員とは？
8. 児童・こども図書館の仕事
9. #
10. #
11. 児童・こどもの発達と図書館
12. #
13. #
14. これからの児童・子ども図書館
15. 試験

**【成績評価の方法】**

レポート、又は、試験に加えて、出席状況、平常成績とで総合評価します

**【テキスト】**

テキストは使用しません。講義と共に、多彩に出版されている子供の本を具体的に、実際に紹介しながら、又、「絵本読み」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。

**【参考文献】**

参考文献は講義の中でお知らせします。又、実際の公共図書館の児童室あるいは、児童コーナーを体験しておいて下さい。

さ  
行

科 目 名			
<b>児童福祉論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	松 本 眞 一

**【講義概要・学習目標】**

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
- 4 児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
- 5 民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
- 6 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
- 7 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
- 8 児童に対する相談援助活動について理解させる。

**【授業計画】**

- 1 現代社会と児童
  - 1) 人間の成長・発達と児童
  - 2) 家族と児童
  - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
  - 1) 児童福祉理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
  - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
  - 1) 把握方法
  - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
  - 1) 児童福祉法
  - 2) 母子及び寡婦福祉法
  - 3) 母子保健法
  - 4) その他関連法規
- 5 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
  - 1) 在宅サービス
  - 2) 施設サービス
- 6 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 7 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
  - 1) 地域と住環境の整備
  - 2) 福祉用具
- 8 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方
- 9 児童に対する相談援助活動
  - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
  - 2) 具体的事例

**【成績評価の方法】**

期末試験（期間内）の結果により評価するが、出席点も加味される。

**【テキスト】**

福祉士養成講座編集委員会（編）『社会福祉士養成講座第4巻 児童福祉論』（第3版） 中央法規出版

**【参考文献】**

山縣文治編『子ども家庭福祉』（第3版） ミネルヴァ書房  
松本眞一著『児童福祉論』 相川書房（1998年版）

科 目 名			
<b>社会科学入門</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 澤 健

**【講義概要・学習目標】**

「社会科学」というのは、社会の中で生じる現象（問題）に何らかの説明をつけようとして生まれてきたものです。それゆえ、「社会」という非常に広い範囲に起こるさまざまなことを扱います。

ただし、私たちが生きている社会は「市場経済」といわれる社会ですから、社会の中で生じるさまざまな問題は「市場経済」とはどのような社会なのかを知ることで理解することができます。

この講義では社会で生じる現象（問題）を、まずビデオでみてもらい、それについて「なぜ、そのような現象が生じるのか」について考えてもらいます。その後で、「市場経済」の特徴を踏まえながらそれらの問題について説明していきます。

**【授業計画】**

1. 「公害問題」—高度成長期になぜ公害が起こったのか
2. 「環境問題」—環境問題の真の原因はどこにあるのか
3. 「市場経済のパワー」—市場が持つダイナミズムと世の中の変化
4. 「労働問題」—市場経済における働く人の姿
5. 「不況問題」—不況はなぜ発生するのか、どうすれば克服できるのか
6. 「不況と国家の変質」—国家の役割の拡大と20世紀の経済の仕組み
7. 「グローバリゼーションの進行」—世界を包み込む市場経済
8. 「NPOとNGO」—21世紀の市民の時代とは

**【成績評価の方法】**

秋学期末の試験の成績とレポートによって評価する。  
この講義ではビデオ鑑賞と講義を1回ごとに繰り返します。ビデオの内容について課題を設定して、翌週にレポートを提出してもらいます。このレポートは加点要素として考慮します。つまり、レポートを提出しないからといって試験の点数がマイナスされることはありません。ただし、レポートをきちんと出すことを勧めます。

**【テキスト】**

用いない

**【参考文献】**

授業内で適宜指示する

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	北 川 紀 男

**【講義概要・学習目標】**

この講義は、大学でさまざまな学問を志している学生諸君に、社会学という学問の世界を案内しようとするものです。社会学は、われわれ人間の生きざまを研究する学問であり、人間の構成する社会のしくみを見ぬく力を養ってくれます。講義では、社会学の基礎知識を体系的に論ずるのではなく、具体的な人間の行為・社会秩序・全体社会などの問題をとりあげ、社会学に特徴的な分析概念を用いて、できるかぎり平易なことばで解き明かすことに努めたいと考えています。使用する分析概念については、次項の「授業計画」やテキストを参考にして下さい。

この講義を通じて、社会的なものの方・考え方を習得すれば、現にわれわれが生きている現実の社会のしくみをより客観的・実証的に理解する能力を身に付けることができると思います。

また、社会学は「方法としての社会学」とも呼ばれ、社会学以外の学問を志している諸君にも、方法論上の重要なヒントを与えてくれるものとなるでしょう。

**【授業計画】**

講義は、原則としてテキストに従って進めます。以下に、各時間のテーマを列挙しておきますから参考して下さい。

(I) 行為の分析

- (1) 私からあなたへ、あなたから私へ
- (2) 私が私であること
- (3) 他者への烙印
- (4) 日常のなかの演技
- (5) 選別と排除のメカニズム
- (6) 現実と虚偽のはざま

(II) 秩序の解説

- (7) 女であること、男であること
- (8) 私たちをとりまくルール
- (9) 社会のマクロな事象をとらえる
- (10) 社会秩序の不思議さ
- (11) 姿を見せる権力、姿を見せない権力
- (12) 日本人は集団主義的か

(III) 社会の構想

- (13) 人はなぜ共同体を求めるのか
- (14) 市民社会は近代の幻想か
- (15) 人が宗教にめざめるとき
- (16) ポストモダン社会はユートピアか

**【成績評価の方法】**

主に期末テストに基づいて評価するが、出席状況も加味する。また、学習状況を見てレポートを課すこともある。

**【テキスト】**

友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（編）『社会学のエッセンス 一世の中のしくみを見ぬく』、2002年（有斐閣）

**【参考文献】**

北川紀男『文化社会学研究』2004年（八千代出版）  
その他の参考文献については、その都度指示する。

科 目 名			
社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	竹 内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

社会学は、これまで、市民社会（労働、交通、家族）に焦点をおきつつ、総体としての現代社会が構造的に転換する様を追求してきた。転換期にあっては、個人の価値観や行動様式に変化が現れるが、それは社会の側にそれを変えるだけの条件がすでに準備されてくることによってである。「個人」が近代社会と共に生まれ、その発展の中で変貌し、今日の成熟した現代のなかで、どのように分岐し、再編され、いかなる課題に直面するにいたるか、そういうことを考えてみたい。

**【授業計画】**

1. 社会的なテーマ 個人と社会  
個人と社会についてのさまざまな語り方、問題のされ方、近代から現代まで
2. 芸術の中に表現された個人と社会  
黒澤明、小津安二郎、山田太一など
3. 市場社会か福祉国家かに直面する「個人」  
競争する個人か連帯する個人か

**【成績評価の方法】**

試験成績、レポート、などを総合して評価する

**【テキスト】**

竹内真澄『福祉国家と社会権 デンマークの経験から』晃洋書房

**【参考文献】**

ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

科 目 名			
<b>社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期集中	4単位	竹 中 英 紀

**【講義概要・学習目標】**

社会学史上の主要な学説について理解を深めながら、社会学の各分野に共通の分析視点と基礎理論の獲得をめざす。

社会学の研究対象は、家族や教育、地域社会（村落・都市）、産業、宗教、文化などといった多くの専門領域に広がっているため、初学者にはこれらが一つの「社会学」であるということが見えにくい。しかし社会学とは、要するに人間の社会とその構成単位としてのさまざまな集団の研究なのであって、〇〇社会学と名の付く学問はすべて、それぞれの分野における社会・集団の構造に注目を寄せているのである。

そして、こうした社会学の各分野が考え方の基礎として共通して依拠しているのは、ウェーバーやデュルケムといった古典的社會学者たちの業績である。かつて彼らは、近代社会の到来とそれがもたらす影響という問題に真正面から向き合った。その学問的価値は、グローバル化、IT化、格差社会化といった現代社会の変動の中でも消えないどころか、ますます重要性を増している。

**【授業計画】**

1. 「社会学」の誕生
2. カール・マルクスと社会紛争の理論
3. マックス・ウェーバーと社会階層の理論
4. エミール・デュルケムと社会統合の理論
5. タルコット・パーソンズと社会システムの理論
6. パーソンズ批判とマイクロ社会学の理論
7. アーヴィン・ゴッフマンと相互作用儀礼の理論
8. ピエール・ブルデューと階級文化の理論
9. アンソニー・ギデنزとモダニティの理論
10. ランドル・コリンズと脱常識の社会学

※なお、この科目を担当するのは今年度が最初のため、ここで示したのは2006年1月現在でのラフな構想である。詳細は開講までに確定の上、初回の授業で改訂版の授業計画を配布する。

**【成績評価の方法】**

授業中に実施する小テスト・小レポート（複数回、予告なし）6割、学期末試験4割。

**【テキスト】**

那須壽編『クロニクル社会学』（有斐閣、税込1995円）

**【参考文献】**

ランドル・コリンズ『ランドル・コリンズが語る社会学の歴史』（有斐閣）  
アンソニー・ギデنز『社会学』第4版（而立書房）  
ほか、授業中に指示する。

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

本講義は、社会学を本格的に学んでいくための基礎的な力を身につけることを目標としています。社会学の基礎概念や理論を用いて、普段の生活において〈あたりまえ〉とみなしている事柄から、距離をとることができるようになることを目指します。

各回の講義では、まず社会学という学問の基本的な考え方やものの見方を体感してもらうことから始めたいと思います。現代社会で起こっている様々な現象が、社会学というレンズを通してみると、どのようにみえるのかを紹介していきます。なぜ自分探しがはやるのか、人間関係は希薄化しているのか、なぜ子どもを愛せない親が増えているのか、恋愛と結婚はどう違うのか、フリーターはなぜ増えるのか等々、身近な話題をとりあげます。その後、関連した社会学の基礎概念や理論を整理し講義していきます。

**【授業計画】**

以下のような内容を予定していますが、詳細については第1回の講義で説明します。

1. 社会学とは
2. 社会学でわかる「私」という存在
3. 社会学でわかる対人関係
4. 社会学でわかる家族
5. 社会学でわかる地域
6. 社会学でわかる学校と教育
7. 社会学でわかる会社と仕事
8. 社会学でわかる文化と風俗
9. 社会学でわかる国家と政治
10. 社会学でわかるメディア
11. 社会学でわかる世界情勢
12. 社会学でわかる逸脱と社会問題
13. 社会学の歴史
14. 社会学の歴史2
15. まとめ

**【成績評価の方法】**

学期末試験、レポート、出席状況などによって総合的に評価します。

**【テキスト】**

浅野智彦編 2002『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版

**【参考文献】**

森下伸也 2000『社会学がわかる事典』日本実業出版社  
朝日新聞社編 2004『新版 社会学がわかる。』朝日新聞社  
那須壽編 1997『クロニクル社会学』有斐閣  
※その他、講義中に適宜紹介します。

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期集中	4単位	鈴木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間と社会」に関する社会学の視点を出発点にして、人間の社会化、行為と社会規範、組織と集団、階級・国家・市民社会、等々の基礎概念を講じ、社会学の歴史にもふれる。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

**【授業計画】**

序. 社会学の視点：人間と社会

第I部. 基礎概念

- § 1. 人間の社会化
- § 2. 行為と社会規範
- § 3. 組織と集団
- § 4. 階級・国家・市民社会
- § 5. 社会学の歴史

第II部. 世界社会学の視野と現代日本社会

社会の量と質／人口諸構成／支配構造／労働／社会保障／家族・ジェンダー／犯罪・治安／教育／メディア／社会運動／在日外国人／国際関係／他

**【成績評価の方法】**

- (1) 試験成績、(2) レポート成績 (ビデオ感想文等)、(3) 出席点、等を総合して評価する。

**【テキスト】**

使用しない。適宜プリントを配布する。

**【参考文献】**

- 暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書  
見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書  
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全4巻、大月書店  
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣  
(その他、古典や基本文献などは、講義中に紹介する)

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	4単位	竹内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

目標は、社会学の言葉や視点を使って、社会をあるひとまとまりのものとして掴み、自分や他人をその社会的な文脈に位置づけ理解できるようになることにある。とくにその場合大切なことは・・・

第一に、世界や社会や時代の変化に新鮮な驚きを感じ取ること。

第二に、このこととつながっているが、社会とともに流動している自分や身の回りの人々が、実はとても謎めいた存在だということ。「発見」する力を身につけること。

第三に、自分と他人に深い関心をもつこと。自分を知るためには社会(他人)をよく見つめる必要があるが、また、社会を知ろうとすれば、自分を突き放してやるのが大切だろう。

第四に、こういったことを君の経験によって、時には痛覚や喜びを伴って、味わってほしい。

私は、授業の中で、皆さんとともに、驚いたり、謎を提出したり、他人を前よりもより深く理解できるようになったり、自己の経験の意味を確認できるようになればよいなあと、期待している。

**【授業計画】**

<前半>時間や空間、時代や国民社会を変えてみると、人間の生活や価値観、思考様式、行動様式が変わること、とても多様であることがわかる。北欧と日本、1960年代と現在、男性と女性、共同体と市民社会、バラバラな個人と連帯する個人などを扱う。これによって、人間や社会の構造と変化をつかむ。

<後半>現代社会の動向や私たちが直面するいろいろな社会問題を扱う。社会の動向や問題がなぜ、どういう理由で発生するか、どうやったら解決できるかなどを探る。現代の貧困、働き方、失業、ニート、近代化、階級と階層(格差社会)などを扱う。

**【成績評価の方法】**

出席、試験成績、レポートなどから総合的に評価する。

**【テキスト】**

とくに指定しない

**【参考文献】**

- 福沢諭吉『学問のすすめ』岩波文庫  
吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫  
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書  
水田珠枝『女性解放思想の歩み』岩波新書  
熊沢誠『女性労働と企業社会』岩波新書  
森岡孝二『働き過ぎの時代』岩波新書  
福島清彦『ヨーロッパ型資本主義』講談社現代新書  
竹内真澄『福祉国家と社会権』晃洋書房  
ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期集中	4単位	宮 本 孝 二

**【講義概要・学習目標】**

社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この社会学基礎講義では、これから社会学を本格的に勉強する社会学部1年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。

まず、どのような社会現象にも存在する人間（パーソナリティと行為）と社会関係（相互行為、地位・役割）を把握する視点を提示した上で、家族、地域社会、職場、組織集団などの基本的な社会生活の場、政治や経済や文化等の社会領域、不平等問題や環境問題や犯罪問題などの社会問題について、基本となる情報と分析視点・方法を紹介する。問題解決と意味解読という2大課題に向けて、社会学的分析能力の基礎を養成したい。

**【講義計画】**

1. 社会学とは何か：社会学の歴史と現在
  2. パーソナリティと社会化
  3. 行為と相互行為：社会の基本構成
  4. 家族：現代家族の変容と課題
  5. 地域社会：コミュニティの諸相
  6. 職場と組織集団：組織論の展開
  7. 階級・階層：人々の分類と不平等
  8. 経済：産業化、グローバル化、情報化
  9. 政治：パワーとコンフリクト
  10. 教育：学校教育の機能と逆機能
  11. 科学技術：リスク社会の成立
  12. 宗教：世俗化と脱世俗化
  13. 逸脱：価値規範と犯罪・非行
  14. 文化の諸相：意味解読の社会学
- 以上の内容を、「まとめと補足」を含めて順次約25回で講義する

**【成績評価の方法】**

期末テストの成績に、出席点数とレポート点数を加味して総合的に評価する。

**【テキスト】**

森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』（新曜社、1998年）

**【参考文献】**

その都度、適宜指示する。

科 目 名			
<b>社会学基礎講義</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	秋学期集中	4単位	鈴 木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

社会学があつかう問題は、すでに各人の日常生活のなかにある。社会学の基礎概念・基礎理論の学習によって、これが見えてくる。そこで前半では、「人間と社会」に関する社会学の視点を出発点にして、人間の社会化、行為と社会規範、組織と集団、階級・国家・市民社会、等々の基礎概念を講じ、社会学の歴史にもふれる。後半は、歴史的現実の次元に移って世界社会学の視野から現代日本社会を主題とし、その近代化過程の特徴と現在の体制的・構造的全体像、さらに、そこに内包される諸問題へと講義を展開する。後期は、ビデオや新聞・統計資料等を多用する。

学習目標は、社会学の視野や方法論、基礎知識の獲得、それを通じた学問的な探究と思考のスタイルの習得、さらに現実社会の諸問題への学的関心の喚起にある。この目標達成のため、講義内容はやや高度である。欠席を避け、最初から真剣な態度で受講に臨むことが必要である。

**【授業計画】**

序. 社会学の視点：人間と社会

第I部. 基礎概念

- § 1. 人間の社会化
- § 2. 行為と社会規範
- § 3. 組織と集団
- § 4. 階級・国家・市民社会
- § 5. 社会学の歴史

第II部. 世界社会学の視野と現代日本社会

社会の量と質／人口諸構成／支配構造／労働／社会保障／家族・ジェンダー／犯罪・治安／教育／メディア／社会運動／在日外国人／国際関係／他

**【成績評価の方法】**

- (1) 試験成績、(2) レポート成績（ビデオ感想文等）、(3) 出席点、等を総合して評価する。

**【テキスト】**

使用しない。適宜プリントを配布する。

**【参考文献】**

暉峻淑子『豊かさの条件』岩波新書  
見田宗介『現代社会の理論－消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書  
渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』全4巻、大月書店  
浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣  
(その他、古典や基本文献などは、講義中に紹介する)



科 目 名			
<b>社会学原論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	宮 本 孝 二

**【講義概要・学習目標】**

社会学原論は、どのような社会現象においても成立している基本的な社会構成を体系的に明らかにすることをめざす。すなわち、社会とは何か、社会の一般的特性とは何かを、行為や相互行為から構造や変動に至る基礎概念の分析、社会学史に登場する多様な社会理論の紹介を通じて、明らかにしようとするのである。

また、社会を一般的な理論として解明することは、社会を全体的な視点から把握することに接続していかざるをえない。すなわち、マクロな変動論を媒介にして、社会学原論と現代社会論（近代化というマクロなトレンドのなかで各時点において社会を全体的に把握することをめざすという意味での）とが、統一的に把握されることになるのである。したがって、近代化に含まれる諸トレンドや現代社会の全体的構成についても解説する。

**【授業計画】**

- 1 社会学原論とは何か
  - 2 人間の特性：意味づけと資源動員
  - 3 社会の形成：人間社会と現代社会
  - 4 相互行為の4つの側面
  - 5 コミュニケーションの社会理論
  - 6 サンクシヨンの社会理論
  - 7 エクスチェンジの社会理論
  - 8 コンフリクトの社会理論
  - 9 構造という視点
  - 10 変動という視点
  - 11 近代化と現代社会論
  - 12 社会理論の諸相：現代の社会理論家たち
- 以上の内容を、順次約25回で講義する

**【成績評価の方法】**

期末試験によって評価する。ただし、その都度指示する自由提出レポートで若干の加点を行う。

**【テキスト】**

宮本孝二『ギデنزの社会理論』（1998年、八千代出版）  
社会学原論と現代社会論の可能性を探究しているアンソニー・ギデنزの社会理論の全体像を解説したもの。

**【参考文献】**

その都度、適宜指示する。

**【備考】**

<02～06生>

共通自由科目として、SS生対象外  
SS生は学科教育科目

科 目 名			
<b>社会学史</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	竹 内 真 澄

**【講義概要・学習目標】**

社会学の歴史を扱う。社会学は、社会の総体を市民社会に焦点を当てて分析する学問である。社会学は世界資本主義とともに発展してきた。社会学は、18, 19世紀に「北」（先進国）側の近代化とその再編過程で生まれた。20世紀になると欧と米を中心に社会学が制度化され、日本もここに組み込まれていった。この過程で欧米および日本の近代化の特質に対応した学問が発展した。その一方で冷戦期には「南」やジェンダーの視点も学問内部へ送り込まれ、社会学の多様化がすすんだ。さて21世紀には、世界は再び流動化しはじめた。「北」の「豊かな社会」は南北問題とグローバル化の影響で「収縮」し、かつての安定性を失いつつある。社会学は、良かれ悪しかれ、社会問題への反応形態である。自称社会学者だけでなく、非職業的社会学者もまじえて、世界資本主義の衝撃が社会学にどのような影響を与え、学問はこれにいかにかに挑戦したかを考える。

**【授業計画】**

- (1) 18世紀ヨーロッパの社会科学
- (2) 19世紀社会学の原型
- (3) 福沢諭吉と日本近代化
- (4) 19世紀末から20世紀初頭の社会と個人
- (5) 自由主義の再編と社会学
- (6) 都市問題とシカゴ学派の登場
- (7) 戦時下日本の抵抗と市民社会概念
- (8) 戦後日本と社会学
- (9) 戦後・冷戦期・ポスト冷戦期と社会学
- (10) 近代化と学校の病理
- (11) 「私」イデオロギーと個人の可能性
- (12) 近代家族の二つのイメージ
- (13) 近代家族理論の対抗
- (14) シティズンシップの発展と福祉国家
- (15) 反福祉国家とネオ・リベラリズム
- (16) フランクフルト学派の主題
- (17) 南北問題と世界システム論
- (18) 現代世界と社会権
- (19) 北歐型社会とアメリカ型社会
- (20) 21世紀の新しい社会理論

**【成績評価の方法】**

年度末試験で評価するが、授業の進行次第でレポートを課す場合がある。

**【参考文献】**

T・パーソンズ『社会的行為の構造』木鐸社  
J・ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』未来社  
竹内真澄、鈴木富久他著『人間再生の社会理論』創風社  
内田義彦『社会認識の歩み』岩波新書  
アクセル・ホネット、竹内真澄他訳『正義の他者』法政大学出版局  
ハワード・ジン、竹内真澄訳『ソーホーのマルクス』こぶし書房

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学特講－釜ヶ崎と人権</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	小 柳 伸 顕

**【講義概要・学習目標】**

大阪の寄せ場釜ヶ崎（行政名あいりん地区）は、日本社会の縮図とも言えます。1903年第5回内国勸業博覧会のため、スラム長町（現在の日本橋電気屋街周辺）から強制移住させられた人々によって出来た町です。以来100年を越えました。戦前は貧しい人たちの地域（スラム）として、戦後は日雇労働者の町として、近年は、高齢者、野宿生活者（ホームレス）の町として存在してきました。100年の歴史をたどる中で、地域に住む人々の労働、生活がどのように保障されて来たのか、具体的な事例を通して検証します。

**【授業計画】**

- I. スラムの形成
  1. 強制移住－第5回内国勸業博覧会
  2. 米騒動と釜ヶ崎（1918）
- II. スラムから寄せ場へ
  1. 釜ヶ崎暴動1961－「日雇労働者かて人間や！」
  2. 「あいりん地区」対策とは。
  3. 裁判から見えて来る寄せ場  
3・1労働運動 3・2医療 3・3居住権
- III. 寄せ場と「ホームレス特措法」

**【成績評価の方法】**

期末テストと授業中の小レポートと出席。

**【テキスト】**

特になし。ただし関係資料を授業ごとに準備します。

**【参考文献】**

- ・釜ヶ崎資料センター編『釜ヶ崎－歴史と現在』（三一書房）
- ・寄せ場学会編『寄せ場文献購読306選』（れんが書房新社）

科 目 名			
<b>社会学特講－死生観の社会心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	渡 部 美穂子

**【講義概要・学習目標】**

脳死臓器移植や終末期医療など、死に関わる社会問題は現代における重要なテーマのひとつであるにも関わらず、私たちが日常生活で死について深く考えることはあまりない。また、死の問題を考える上で日本人の宗教性は重要な側面であるが、「宗教」という言葉に対して否定的なイメージをもつ人は少なくないであろう。

この講義では、受講生のみなさんに「自分自身の死」だけでなく、「近しい他者の死」の問題についても考えてもらうことを通して、少子高齢化が進む現代社会が抱えるさまざまな問題についての考察を深めてもらうことを目的とするとともに、自分自身が持っている「宗教性」について考えることによって、日本文化への関心が高まることを期待している。

**【授業計画】**

- ・死生観の社会心理学的研究
- ・日本における死生観研究
- ・死と宗教観（日本人の宗教性）
- ・葬送儀礼と来世信仰
- ・自己の死への態度
- ・他者の死への態度
- ・死への態度の規定因
- ・現代における死の問題

（注）上記は講義順序を示すものではない

**【成績評価の方法】**

時折小テストを行ったり、講義中に内容に関連するアンケート調査を実施したりして、それを出席点とする。また、テーマ内容に沿った参考文献を読んでレポートを作成してもらう予定である（詳細は講義中に説明する）。

**【テキスト】**

特に指定しない

**【参考文献】**

講義内容に応じて適宜指示する

科 目 名			
<b>社会学特講－日本映画 I</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	ラウール セルバンテス Raoul Cervantes

**【講義概要・学習目標】**

For the first semester of Japanese film we will view movies produced before 1960. We will discuss these films and focus on film technique, culture, and social issues. This class is for advanced students of English.

**【授業計画】**

First we will view two films by Kurosawa, which focus on Japanese society. Then we will examine the films of Ozu which focus on the Japanese family and Japanese culture.

**【成績評価の方法】**

Students will be graded on participation. Students must come to class and participate in English.

**【テキスト】**

none

**【参考文献】**

none

**【備考】**

英語による授業です

科 目 名			
<b>社会学特講－日本映画 II</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	ラウール セルバンテス Raoul Cervantes

**【講義概要・学習目標】**

In this class we will study Japanese Film produced after 1960. We will focus on the cultural and social aspects of the films, particularly social stress, problems of youth and the problems of modern society. This is a class for advanced students of English.

**【授業計画】**

The films will be announced during class.

**【成績評価の方法】**

Students will be graded on class attendance, participation, and their ability to express their opinions in English. There will also be written work.

**【テキスト】**

None

**【参考文献】**

None

**【備考】**

None

科 目 名			
<b>社会学特講—老年社会学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	安 達 正 嗣

#### 【講義概要・学習目標】

この講義では、エイジング（加齢現象）について社会的視点から考察する「老年社会学」に焦点をあてる。老年学（ジェロントロジー）とは、エイジングを理解するために必要な根拠を研究する学問である。社会学視点とは、わたしたちが年齢を重ねながら生活する社会の仕組み、ならびに人口の高齢化が個人におよぼす影響に着目する視点である。日本社会を中心にしながら、諸外国の事情も考慮して具体的に解説したい。

#### 【授業計画】

1. 老年社会学への招待
2. 人口高齢化と人生80年時代①②
3. 高齢期ライフイベント①②
4. エイジング研究の社会的アプローチ
5. 定年退職と職業からの引退①②③
6. 高齢者の社会参加①②③
7. 高齢者の経済生活と消費生活①②
8. 社会保障制度（年金制度など）①②
9. 高齢者と家族①②③④⑤
10. 余暇生活と生きがい①②
11. 高齢者のイメージ①②
12. 高齢者政策①②
13. 高齢者のQOL①②
14. 老年社会学のゆくえ

#### 【成績評価の方法】

前後期に各1回ずつレポートの提出を課す。それ以外にも、講義中の小レポートを提出してもらおう。それらを総合的に評価する。

#### 【テキスト】

岡村清子・長谷川倫子編『テキストブック エイジングの社会学』日本評論社

#### 【参考文献】

講義中に適宜紹介する。

科 目 名			
<b>社会科・公民科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	飯 島 敏 文

#### 【講義概要・学習目標】

本講義は中学校社会科及び高等学校公民科授業を実践できる基本的知識と能力を身につけることを目標とするものです。

社会科学・人文科学の諸領域を習得しただけでは授業実践はできません。生徒の発達段階や生活経験・学習経験を踏まえ、もっとも効果が期待できる教材を選択し、授業過程において生徒にどのような学習活動を行わせるのかということ具体的に構想しなければなりません。そこには常に生徒の公民的資質の育成という中核的な目標が位置づけられていなければなりません。

社会科・公民科という教科に対する誤解をとき、社会科・公民科という教科が何のために設けられているのかという原点に立ち返って授業実践を考えていただきたいと思ひます。情報化社会やニューメディアに対応したこれからの社会科・公民科授業を考えていきましょう。それは皆さんご自身が現代社会を生き抜く力を身につけることにもつながるものです。

#### 【授業計画】

本講義は通年の講義ですが、主として前期には中学校社会科に関する内容を扱い、後期に高等学校公民科に関する内容を扱うことを予定しています。

前期は、昭和22年の社会科成立期から今日に至るまでの社会科を概観し、とくに成立期社会科におけるカリキュラム構成と授業実践について考察します。現代の社会科授業実践を考えるために有効な視点を可能な限り具体的な形で紹介することによって、授業を実践するとはいかなることであるかを解説します。

後期は、高等学校公民科の特徴と公民科に含まれる諸科目の特徴とその実践的課題について解説します。

前期・後期ともに受講生の皆さんが社会科授業及び公民科授業の学習指導計画を作成することができるように手ほどきをいたします。常に社会の姿を「授業」のレベルで考えることができるような視点を提供していく予定です。

なお、コンピュータ教室を活用し新しいメディアに親しむとともに、それを授業実践構想に生かしていくことを重視しています。

#### 【成績評価の方法】

出席状況、授業内小レポートの内容、及びレポート試験の内容を総合的に評価します。（前期・後期共レポート試験があります）

#### 【テキスト】

テキストは指定しませんが、下記図書は必須です。

『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』

『中学校学習指導要領解説 社会編』

『高等学校学習指導要領解説 公民編』

#### 【参考文献】

講義内においてその都度紹介します。必要最低限の文献についてはコピーを配布いたしますが、欠席者への再配布はいたしません。

科 目 名			
<b>社会科・公民科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	宮 本 進

#### 【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。その中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。日本は経済低迷の最中で、国民は漠とした不安の中にいる。また、地球の幾つかの地域では紛争中であり、日本もそれには無関係ではられない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員の立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせさせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の目的と役割、教育課程の変遷、教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、模擬授業などを取り入れた参加型の授業にしたい。

#### 【授業計画】

- ・はじめに一講義概要など
- ・どんな社会に生きているのか
- ・教員の現状
- ・国旗・国歌問題と社会科・公民科教育
- ・戦後の社会科・公民科教育
- ・社会科・公民科教育と社会認識・態度
- ・社会科指導要領の内容と授業
- ・公民科の目標
- ・公民の概念と公民科教育
- ・公民科指導要領の内容と授業
- ・模擬授業の準備と学習指導案の作成
- ・模擬授業による授業研究
- ・まとめ
- ・テスト

#### 【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

#### 【テキスト】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

#### 【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
<b>社会科・地歴科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 崎 充 彦

#### 【講義概要・学習目標】

地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、各自に模擬授業を行ってもらう。

もっぱら教員免許取得希望者を対象とし、模擬授業を中心とした演習形式とするので、教職希望しない者にとっては、苦痛を感じるかもしれない。その点、留意の上、登録履修されたい。

なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に関心を持つ者の登録履修も歓迎する。

#### 【授業計画】

開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、授業への積極的参加を要求される。

1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。
2. その指導案に基づき、毎回一人に模擬授業を行ってもらう。
3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および授業資料（教科書その他のコピーなど）を配布する。
4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。＝指導案の問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。→次回の模擬授業担当予定者が司会役を務める。
5. 当日の出席者は、その模擬授業についてのレポートを当日ないし、翌週に提出する。

模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも知れないので、その点を留意されたい。

なお、模擬授業を担当するには、かなりの程度の事前準備が必要であることを認識してもらいたい。

例年、教科書だけを棒読みしてお終いとするような模擬授業や、担当者の質問に十分に回答できないような不勉強な者もいるが、そのような準備不足が著しい模擬授業担当者に対しては、かなり「強い言葉」を以て、批評・批判するので、履修登録に当たってはその点を覚悟しておかれたい。

#### 【成績評価の方法】

模擬授業の担当は、単位認定のための絶対的前提条件である。

学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、出席回数、これらにより総合的に評価する。定期試験は行わない。

模擬授業の担当日に正当な理由無く、無断欠席した者は、その時点で「不可」とする。

#### 【テキスト】

教科書は使用しない。

#### 【参考文献】

文部科学省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版

科 目 名			
<b>社会科・地歴科教育法</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	野 尻 亘

**【講義概要・学習目標】**

学校教育現場では、いじめ・不登校・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況のなかで、中学校「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業はどのようにあるべきか。

単なる知識や技能の伝達にとどまらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、解説をすることにする。

**【授業計画】**

1. 学校における教科教育 陶冶と訓育
2. 社会科・地理歴史科の目標
3. 社会科・地理歴史科のカリキュラム構成
4. 教育実習と授業実践
5. 授業指導案の作成と成績評価
6. 社会科・地理歴史科と人権学習
7. 生涯学習社会と社会科・地理歴史科教育

**【成績評価の方法】**

指定した書式にもとづく「授業指導案」を作成し、期日までにレポートとして提出すること。また履修者全員が授業時間中に模擬授業を行うこと。大阪府教育委員会の行政指導により、これらのことを単位認定の条件とする。

**【テキスト】**

文部科学省『中学学習指導要領解説 社会編』大阪書籍  
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版

**【参考文献】**

井原政純『社会科・地歴科・公民科基礎論』多賀出版  
 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書

## 「社会学科基礎演習」について

社会学部教授会

1992年度より社会学部社会学科新生を対象に開講されたこの「社会学科基礎演習」は、社会学部教員によって質疑応答可能な少人数クラスのゼミナール形式で運営される。そこでは、特定のテーマを選択し、それを研究するさまざまな方法や、その結果を口頭で報告したりレポート・論文にまとめたりするなどの基礎的な方法について指導をうけることになる。すなわち以下の4つの項目である。

- ① テーマの発見 : 社会的現実への興味関心なくして社会学部の勉強はできない。現実の中に問題を発見する方法がまず学ばねばならない。
- ② 情報収集 : 特定テーマについて研究するのに必要な情報を探し収集する方法は、そのテーマに応じて多種多様である。情報源の種類は、単行本、雑誌、新聞などの活字メディアはもちろん、映像・音声メディアと多彩であり、さらには現場・現地における参与観察やインタビューやインターネットなどもある。それらの情報を効率よく正確に探索し発見し入手する法について学ぶ。
- ③ 情報解読 : 収集された多種多様な情報は解読され整理されねばならない。たとえば本の読み方であり、新聞・雑誌の読み方である。あるいはテレビ・映画の見方であり、観察の仕方、体験の反省的検討の仕方である。それらの方法について学ぶ。
- ④ 口頭報告、討論、レポート・論文作成 : 解読された情報は蓄積しておくだけではなく、表現され伝達されなければならない。ゼミナールにおいて口頭で報告したり、討論し合ったり、さまざまなテーマについて小論文を書き添削指導を受けたり、また、年間を通じて特定テーマを選択し論文を書いたりすることなどを通して、研究発表の方法を学ぶ。

大学での4年間の学習において、また、卒業後の職業生活において必要なのは特定テーマについて情報を収集し・蓄積し、それらを解読・整理し、自分の問題関心や視点に基づいて再構成し、それを表現・伝達する力である。それは即席では身につかない。そこでこの基礎演習に参加して、その力を少しでもつけておくことが望ましい。ただし、開講される基礎演習の各クラス案内に書かれているように、取り上げられる具体的テーマや、指導において重点の置かれる項目には違いがあるので、案内をよく読んで選択していただきたい。

科目名称 : 社会学科基礎演習  
対 象 : 社会学部社会学科1回生  
形 式 : ゼミナール  
定 員 : 30名

## 「社会学科基礎演習」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	巖 圭介	環境問題を考える	189
02	岩田 考	<常識>を疑う	189
03	上田 修	みんなで考える日本社会の問題	190
04	北川 紀男	新聞記事から社会学の課題を探ろう	190
05	木下 栄二	身のまわりからの社会学	191
06	鈴木 富久	映画で学ぶ社会学	191
07	竹中 秀紀	大学の学習と社会学研究の基礎	192
08	中村 秀之	社会学入門	192
09	西川 一廉	『青年の心理を考える』	193
10	原田 達	「社会」と出会うこと	193
11	松永 俊男	科学と社会	194

## 「社会学科文献演習」クラス一覧

クラス	担当者	ページ
01	安達 正嗣	194
02	大野 順子	195
03	捧 堅 二	195
04	清水 夏樹	196
05	畠中 宗一	196
07	矢嶋 巖	197
08	山内 乾史	197
09	渡部 美穂子	198



科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	巖 圭 介

**【講義概要・学習目標】**

この演習では、環境問題を材料にして、大学生活に必要な基礎技術「読む、調べる、考える、書く、伝える」を身につけてもらう。

インターネットの普及により、資料を集めるのは簡単になった。とくに環境問題に関する情報はちまたにあふれている。その資料を集めてどうするか、そこからどうやって重要な情報をつかみ、それをどう人に伝えるか。これらのことを身につけてもらうのがこの演習の目的である。

**【授業計画】**

具体的なテーマについて論文を書き発表するまでのプロセスを体験しながら、各ステップで気をつけるべきことを学んでもらう。

- ・資料収集演習
- ・討論演習
- ・レポート執筆演習
- ・プレゼンテーション演習

**【成績評価の方法】**

出席、報告、参加度、レポートなどを総合的に判断して評価する。欠席5回で除籍する。

**【テキスト】**

なし

**【参考文献】**

学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版 2002年  
 荒木晶子ほか『自己表現力の教室』情報センター出版局 2000年  
 戸田山和久『論文の教室』NHKブックス 2002年

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

大学で社会学を学ぶための基礎的な力を養う演習です。以下のような3つの学習を通じて、〈聴く〉〈読む〉〈調べる〉〈整理する〉〈まとめる〉〈書く〉〈表現する〉〈伝える〉、そして〈考える〉という9つの力を身につけることを目標とします。

第一に、『知へのステップ』をテキストとして、講義の受け方、本の読み方、情報収集の仕方、レポートの書き方、基本的なコンピュータ・ソフトの使い方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。第二に、文献の要約、発表、討論の仕方を実践的に学習するため、社会学文献の輪読を行います。今年度は、みなさんのような若い人たちの対人関係に関する文献（『親密さ』のゆくえ）をテキストとします。第三に、発展的学習として、テキストや参考文献で取り上げられている諸問題に関連したテーマについて、文献を調べ、資料を収集し、考察を行い、口頭発表およびレポートの作成を行います。

なお、本演習のサブテーマは、「〈常識〉を疑う」です。身近な対人関係を素材として、普段〈あたりまえ〉とみなしていることを〈あたりまえでない〉ことのように考えてみる、という社会的なものの見方も同時に身につけてもらえるようにしたいと思います。

**【授業計画】**

以下のような内容を予定していますが、詳細については第1回の演習の際に説明します。

- ・自己紹介と他者紹介
- ・講義の受け方
- ・本の読み方と要約の仕方
- ・図書館と情報センターの利用
- ・コンピュータ・ソフトの使い方
- ・プレゼンテーションの仕方
- ・テキストの輪読、発表、討論
- ・プレゼンテーションの練習
- ・レポートの作成

**【成績評価の方法】**

出席状況、授業での報告、討論への参加状況、レポート等によって総合的に評価します。

**【テキスト】**

学習技術研究会編著 2002『知へのステップ—大学生からのスタディ・スキルズ』くろしお出版  
 岩田考ほか編 2006『親密さ』のゆくえ（仮題）恒星社厚生閣（近刊予定）

**【参考文献】**

田中共子編 2003『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房  
 上田和美・内田充美 2005『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版  
 川崎賢一・藤村正之編 1992『社会学の宇宙』恒星社厚生閣  
 浅野智彦編 2002『図解 社会学のことが面白いほどわかる本』中経出版  
 浅野智彦編 2006『検証・若者の変貌—失われた十年の後に』勁草書房（近刊予定）  
 岡田朋之・松田美佐編 2002『ケータイ学入門』有斐閣  
 ※その他、講義中に適宜紹介します。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	上 田 修

**【講義概要・学習目標】**

この演習の目的は、自ら考え、調べ、報告し、討論するという作業をおこなうことによって、学ぶことの楽しさを再発見することにある。すなわち、各自の問題関心にそって文献を調べ、資料を系統的に収集することで論点を導き出し、さらにそれにもとづいて報告をおこない、討論する楽しさを味わいながら研究能力の向上を図る。具体的対象は、各人の問題関心に任せるが、採り上げられた問題・・・例えば、校則・いじめ・学力低下に典型される教育問題、家族の変容、ニート問題に見られる若者の就職問題・・・が社会的にいかんにか説明できるのかを、演習計画に示したプロセスを通して考える。

**【授業計画】**

1 班の構成

①最初に、各自の問題関心にもとづくグループ化（班編成）をおこない、②文献・資料の調査方法、③報告の仕方、レジュメの作成について説明する。

2 第1次班別報告

若干の準備期間を設けた後、1によって構成した班から1度に1テーマずつ報告を受け、小グループ（3～4グループ）に分かれて討論をおこなう。グループ別討論のあと、全員で各班の討論内容を確認する。

3 第2次班別報告

第1次班別報告が一巡した後、再び各自の問題関心にそって班別構成を再編成し（どのようにおこなうかは演習参加者の希望を聞いた上で決める）、班別報告の第2ラウンドをおこなう。この際、グループ討論は、第1ラウンドより規模を大きくしておこなう。これによって、徐々にではあれ、多人数のなかででも発言できる力をつけていく。

4 レポートの提出

演習の最終段階において、報告・討論を踏まえたレポートの作成をおこなう。

**【成績評価の方法】**

①出席、②報告内容、③討論への参加、④レポートを総合的に勘案して評価する。

**【テキスト】**

使用しない

**【参考文献】**

その都度、指示する。

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	北 川 紀 男

**【講義概要・学習目標】**

演習テーマ：「新聞記事から社会学の研究課題を探ろう」

自己の生活する社会的現実を的確に把握することによって、はじめて学問に対する明確な問題意識をもつことができる。とりわけ社会学を志す者にとっては、しっかりとした問題意識を抱くことは極めて重要であり、でなければ学問に対する興味も出てこないはずである。そのためには、まず社会に関心をもたなければならないが、それには今の自分の生きざまを内省してみることである。世の中に関心を向けなければ、問題意識を抱きようがない。かくすることによって、今の社会で何が重要で、それをどう問題としなければならないかという意識が出てくるのである。

従って、演習では、社会学の基礎知識の習得よりも、社会学に興味をもたせる動機付けを促すことに重点をおいて進めるつもりである。具体的には、新聞記事の講読を通じて、政治・経済・文化などの分野における現実の動向を知り、それを社会的に解き明かすことによって、社会的な考え方を学びとってもらいたいと考えている。

また、この演習を通じて、研究課題を進めるのに必要な情報収集の仕方、資料の解説の仕方、さらにはその表現・発表の仕方を学びとって欲しい。

**【授業計画】**

演習は、新聞記事を教材として使用する性格上、どのような問題を取りあげるかは、2006年度の日本や世界の動向によって異なってくるので特定することはできない。しかし、政治・経済・文化など社会現象を幅広く取りあげることになるであろう。

また、新聞記事を教材に使うが、社会の動向を的確にフォローするためには、雑誌・テレビなど他のメディアのニュースも参照しなければならない。そのために、各時間の冒頭で過去1週間のニュースの動向を報告させる。これは新聞をはじめとするニュースをみる習慣を付けさせるためでもある。

さらに、表現・発表の能力を養うために、指示したテーマに関するレポートの提出を義務づけるつもりである。

**【成績評価の方法】**

演習中の質疑応答、レポートなどを参考に総合的に判定する。なお、演習科目であるから、出席状況も加味する。

**【テキスト】**

演習に必要な資料は、時間ごとに配付資料として用意する。

**【参考文献】**

参考文献は、必要に応じてその都度指示する。

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	木 下 栄 二

**【講義概要・学習目標】**

社会とは何か？ 社会学とは何か？ そう考えるととても難しい問題のように思える。しかし、私たちは誰もが社会のなかで生きている。私たちがいるから社会だって存在できる。

この演習では、できるだけ私たちに身近な事柄（恋愛、ダイエット、流行、なんでもいいよ）と社会全体とのかかわりを追求することで、社会学のイメージと社会学的思考法を学ぶことが目標である。

**【授業計画】**

(状況をみながら調整するがおおむね以下の予定)

<春学期>

1. 演習をすすめていくための予備的な講義
2. 各自の問題関心の明確化
3. 資料探索、レジュメ作成の方法

(夏休みの課題：中間レポートの作成)

<秋学期>

4. 中間レポートの報告と討論
5. 年度末レポートの作成

**【成績評価の方法】**

中間レポート、年度末レポート、出席、討論内容等から総合的に評価する。

**【テキスト】**

使用しない。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	鈴 木 富 久

**【講義概要・学習目標】**

人間は環境の産物であるといわれる。かつて狼に育てられた二人の子供がインドで発見された。動作と情動は狼そのものだった。長い歴史を通じて社会と人間は深い変貌をとげてきた。現代は激動の時代であり、世代間でも人間のタイプは大きく異なってくる。本ゼミでは、この数十年間における日本の社会と人間の変化を時々の映画を通じて読み取り、社会と人間を社会学的に見る眼を養うひとつの場としたい。

鑑賞する映画は、日本映画で主に青少年を主人公にしたものとする。そして、鑑賞後、討論を通じて理解と考えを深めていきたい。

**【授業計画】**

最初、テキスト『狼に育てられた子』を読み、感想を報告しあう。以降は、順次映画を観、討論をおこなう。

小津安二郎「生まれてはみたけれど」1932、を皮切りに、戦中・戦後の黒澤明の「一番美しく」、「わが青春に悔いなし」、さらに今井正「青い山脈」1949、浦山桐郎「キューポラのある街」1962、等を鑑賞、その他は、ゼミ生との協議で決める。

最後には、各人の設定したテーマで論文を書く。このため、誰もが論文を書くことができるように、その書き方を具体的に指導する。

**【成績評価の方法】**

出席状態、レポート・論文、日常的な討論とゼミ参加への積極性、等の総合評価

**【テキスト】**

シング『狼に育てられた子』福村出版

**【参考文献】**

熊沢・清・木本『映画マニアの社会学-スクリーンにみる人間と社会-』

吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫

大内洵子『ジュンコ先生のドイツ教育体当たり奮戦記』五月書房

山田和夫『日本映画101年』新日本出版社

(その他、適宜授業中に紹介する)

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	竹 中 英 紀

**【講義概要・学習目標】**

テーマ：大学での学習と社会学研究の基礎

少人数の演習方式で、まず、授業の聞き方、ノートのとり方、図書館・情報センターの利用法、レポート・試験答案の書き方といった「大学での学習の基礎」をともに学ぶ。

また「社会学研究の基礎」のほうでは、山田昌弘著『希望格差社会』（筑摩書房、2004年）をテキストとして、『本を読む訓練』を徹底的に行ないたい。この本は、今日（こんにち）よくいわれる「勝ち組」「負け組」といった社会階層の二極分化を、職業・家族・教育の各分野について論証してみせたものである。私たちが暮らす現代社会の構造がいったいどうなっているのか（そして、なぜそうなっているのか）という問題に対する興味・関心を持つきっかけとして、また社会的思考法の入門として活用してもらいたいと思う。

**【授業計画】**

以上の「大学での学習の基礎」と「社会学研究の基礎」を並行させつつ、毎回の演習を行なう（本に線を引く、メモやノートをとる、自分の言葉で要約する、他者の報告にコメントする、など）。特定テーマについてのレポート提出や、グループ単位での共同学習・共同研究も予定している。

**【成績評価の方法】**

毎回のレスポンス・カードと、課題の達成状況によって評価する。

**【テキスト】**

山田昌弘『希望格差社会』（筑摩書房、2004年）

**【参考文献】**

『読書力』（岩波新書）『三色ボールペンで読む日本語』（角川文庫）など、齋藤孝氏の著作。読みやすく、大学での学習の基礎の参考になる。また、レポートの書き方としては、木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）が役に立つ。

社会学者が書いた学生向けのガイドブックとしては、野村一夫『社会学の作法・初級編』（文化書房博文社）、荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社）などが推薦できる。また、社会学の研究対象である「社会」を知るために、新聞や総合雑誌（『中央公論』『論座』『現代』など）も常日頃から目を通しておくとよい。

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	中 村 秀 之

**【講義概要・学習目標】**

大学で学び、研究を行うための基礎力（読む）（書く）（調べる）（話す）そしてもちろん（自分で考える）力を鍛える演習です。春学期は、まず図書館の利用法や基本的なコンピュータ・ソフトの使い方、次に、メディア文化論のテキストを中心に、①文章の読み方と内容のまとめ方、②口頭発表の仕方、③発表の聴き方と討論の仕方、④社会的な発想法などを学びます。

秋学期は、発展学習として、テキストで取り上げられている諸問題に関連したテーマを各自で設定し、文献調査あるいはフィールドワークとその考察を行い、成果を口頭発表とレポート作成という形でまとめます。

**【授業計画】**

春学期

ウォーミング・アップ：知の技法と作法、ハードとソフト。

テキストの輪読と討論：広告、整形、博覧会、アニメ、マンガほか。

秋学期

発展学習の発表と討論。学年末レポートの作成。

**【成績評価の方法】**

出席、演習への参加の度合い、課題（レポートなど）、小テストによって評価します。

詳細は第1回の授業で説明します。

**【テキスト】**

阿部潔・難波功士（編）『メディア文化を読み解く技法 カルチュラル・スタディーズ・ジャパン』（世界思想社、2004年）

**【参考文献】**

授業中にそのつど指示する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	西 川 一 廉

**【講義概要・学習目標】**

「青年の心理を考える」が当演習のテーマである。  
 青年期はいわゆる子どもから大人への移行期に当たる。心身共に人生の中でもっとも変化が激しく、それゆえ激動の時代とも疾風怒濤の時代ともいわれてきた。この時期は一般に前期、中期、後期に分けられるが、大学時代は青年期後期に当たる。いわば青年期の総仕上げをし、子ども時代を卒業して、大人の仲間入りを果たす最終段階である。しかし周知のようにモラトリアムが長く、身体は大人だが、精神はいつまでも子どもでいる人も多い。当演習の目的は、当事者である新入生諸君が自分たちで青年の心理について考えながら、これから始まる大学生活に向けて準備をすることである。相互に意見交換をしながら、私たちは何処からきて、何処へ行こうとしているのか、どのようになりたいたいと思っているのかなどを考えるのである。  
 そのためには積極的な探求の姿勢が必要である。与えてくれるのを待つ受け身の学生はいらない。

**【授業計画】**

小グループに分かれ、さまざまなテーマを設定して討議や実習を繰り返す。討議の成果はクラスに口頭発表をする。またレポートにまとめてクラスで報告する。グループは適宜、組み替える。したがって全員が報告の機会をもつ。  
 また前期末、後期末にはレポートを課す。前期末のレポートをもとにプレゼンテーションするのが後期の主たる課題となる。

**【成績評価の方法】**

出席、報告、討議への参加、レポートをもとに総合的に評価する。

**【テキスト】**

未定。

**【参考文献】**

随時、指示する。

科 目 名			
社会学科基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4単位	原 田 達

**【講義概要・学習目標】**

演習のテーマは<社会>と出会うこと。解るようで解らないのが<社会>、出会っているのにであっていることに気づかないのが<社会>、この奇妙なく社会>というものに出会い、気づき、解ることを演習のテーマとしたい。  
 そのためまず、大学で社会学を学ぶの最低条件としての素養、「語る」「聴く」「観察する」「書く」能力を養いたい（もうひとつ重要な要件である「読む」力までは、残念ながら手がまわらない）。  
 <社会>との出会い・気づきと、社会学を学ぶための最低条件の獲得が、この演習の目標となる。

**【授業計画】**

まず「語る」ことから始めたい。そして人の話を「聴く」。簡単そうに見えるこのことが、じつは新入生にはできない。「自己提示（プレゼンテーション）」の仕方を身につける。テーマは「私の家族」。これが春学期の計画。  
 夏休み、この演習では宿題を課す。本を読むよりも前に、各自が街に出る。街に出て、街と人、ファッションや人びとの行動・立ち居振る舞いなどを「観察」する。それを「記録」する。  
 秋学期、この観察記録をもとにして報告をし、レポートを「書く」。最終的には、このレポートを自己紹介とともにhtml文書にしてweb上で公開する。

**【成績評価の方法】**

総合的に判断する。なによりも重要なものは、積極性です。  
 とりわけ夏休みの宿題（観察）はハードです。ここで壁にぶつかるとは。しかし、その壁を突破したとき、きみたちは社会学を学ぶ学生になります。

**【テキスト】**

使用しない。

**【参考文献】**

その都度指示します。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科基礎演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4単位	松 永 俊 男

**【講義概要・学習目標】**

この演習では、科学と社会の関係を材料にして、大学で学ぶための基本を身に付けてもらう。すなわち、調べる、読む、聴く、考える、話す、書く、といった基礎技術を実地に体験して学習し、講義の聴き方、ノートの採り方、レポートの書き方、試験の受け方などを会得してもらう。

大学では高校や予備校と違って、決まり切った「問い」や「答え」があるわけではない。自分で「問い」を見つけ、自分でそれに答えようとする姿勢が大切である。この演習で、諸君が自ら問題を発見し、解決する習慣を養ってもらいたい。

**【授業計画】**

1. 作文演習
2. 図書館の利用
3. 資料収集演習
4. レポート執筆演習
5. プレゼンテーション演習
6. 討論演習

**【成績評価の方法】**

出席を最も重視する。遅刻は厳禁。教室で行われるさまざまな活動に、積極的に取り組む意欲が、評価の対象となる。

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	安 達 正 嗣

**【講義概要・学習目標】**

本演習は、家族や高齢社会について学習すると同時に、受講生自身が報告することを通じて報告の仕方ならびに報告レジュメの書き方について学習することを目的とするものである。

本演習の内容としては、前後期ともに、受講生が教科書の分担章を報告して、受講生全員で議論をする。担当者は、受講生の報告について、指導をおこないながら、その章の内容について解説もおこなう。

**【授業計画】**

前期：受講生が家族についての論文を担当して報告し、受講生全員で議論する。

後期：受講生が少子高齢社会についての論文を担当して報告し、受講生全員で議論する。

**【成績評価の方法】**

出席について（3回以上の欠席は単位認定を不可とする。また報告者が当日に無断欠席した場合も単位認定を不可とする。）

レポートについて（前後期に各1回レポートを提出すること）

成績評価の区分（出席50％・レポート50％で評価する）

**【テキスト】**

前期：中川淳編『家族論を学ぶ人のために』世界思想社

後期：袖井孝子『少子化社会の家族と福祉』ミネルヴァ書房

演習中は、必ず持参すること

**【参考文献】**

演習中に適宜紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	大 野 順 子

**【講義概要・学習目標】**

近年経済のグローバル化や入国管理法の改正に伴い、日本社会へ多くの外国人が渡日している。そういったなかで、特に、公教育の場で、日本の学校教育制度に馴染めない外国人児童生徒の問題が大きな社会問題として注目されている。こういった問題が日本社会に問いかけるものは何か。教育的、文化的側面からその問題の本質を探っていく。

**【授業計画】**

以下の内容を中心に授業をすすめていきます。

1. 日本における在住外国人の現状と取り巻く環境
  - (1) その割合と過去との比較
  - (2) 現状と問題点
  - (3) 在住外国人に関する諸政策
2. 日本社会と外国人問題
  - (1) 現状と問題点
  - (2) 共生という概念
  - (3) 課題
3. 学校教育現場の国際化
  - (1) 外国人児童生徒の割合
  - (2) 現状と問題点
  - (3) 母語指導
  - (4) 多文化教育／異文化理解教育
4. 海外比較研究
5. エスニシティと学校文化

**【成績評価の方法】**

- ①出席（理由なき遅刻は欠席とみなします）
  - ②課題レポート（定期的提出してもらい、発表してもらいます）
  - ③授業への主体的参加、貢献度
- 以上により、総合的に評価します。

**【テキスト】**

『多文化教育の国際比較 エスニシティへの教育の対応』編者：江原武一 発行：玉川大学出版部 2000年  
 ※上記の本に関しては各自購入する必要はない。必要部分やその他毎時のテーマに関連した資料、読みものは随時印刷配布する。

**【参考文献】**

『文化的再生産の社会学—ブルデュー理論からの展開—』著者：宮島喬 発行：藤原書店 1994年  
 その他、適時紹介する。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	捧 堅 二

**【講義概要・学習目標】**

わたしの講義も聴いてもらうが、劇映画、ドキュメンタリー、ニュース映像その他の鑑賞もする。  
 例えば、映画では『七人の侍』、『拝啓天皇陛下様』、『宣戦布告』など、ドキュメンタリーでは『ヒトラー』などはその例である。  
 （留学生はかなりの日本語の力が必要なので御注意）

最近の日本政治についてのニュースをビデオで見ることもある。現在進行中の政治について言及するつもりだ。

それから読書案内も詳しくおこなう。そこから何冊か選んで、レポートを提出してもらうことになる。

毎回、まず私から重要事項について説明してから、映像を見ることが多いので、遅刻をされると困る。遅刻は厳禁である。映像を見ることが多いので、楽な授業だと思って来られると困る。まじめに勉強する意欲のある学生に来てほしい。

**【授業計画】**

- 1 政治＝権力・権力・権力
  - 2 日本の政党政治（自民党）
  - 3 日本の政治と社会
  - 4 「カリスマ」
  - 5 天皇
  - 6 独裁者
  - 7 支配する少数者（パワー・エリート）
  - 9 共同体
  - 10 戦争
  - 11 靖国神社・日中関係
  - 12 伝統的社会における忠誠と恭順
- その他

しばしば、マックス・ウェーバーの政治社会学についてふれる。

**【成績評価の方法】**

演習科目なので、出席重視である。

A4 1枚の短いレポートを数回提出してもらい、これで成績評価をする。

ただし必要に応じて、小テストをする場合もある。

**【テキスト】**

使用しない

**【参考文献】**

ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫ほか

講義の際、随時、多数の参考文献を時間をかけて紹介する。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	清 水 夏 樹

**【講義概要・学習目標】**

近年、TVアニメや映画などジャパニーズ・クールと称されるように、このジャンルの作品群が国際的に高評価を得ている。それらを潜在的な文化資源とみ、知的財産権の対象とする動きも出ている。このようにSub、すなわち“下位の文化”の一言で片づけられない側面をふまえつつ、以下各自関心項目を設定してもらう（例＝現代音楽、オカルト、宗教ブーム、漫画・アニメドラマ、メディア文化等）。

－6,70年代以降の各年限サイクルに照し、若年世代の心理の反映や流行への反応度を照射する手がかりとして、現代社会の動態と諸相をよみとくコードを各自なりにたぐり寄せてほしい。

**【授業計画】**

前期

大衆から分衆社会へ 青年世代の今昔と「聖」「俗」「遊」価値フレーム 高度情報化ともの・言葉・メッセージ。

後期

高度消費社会と記号論 バーチャルイメージとゲーム感覚、同じくインターネット空間、Self reference

**【成績評価の方法】**

参考文献のこなし方、簡易レポートの内容、出席状況、分化テーマへのとりくみ等も勘案して評価する。

**【参考文献】**

随時指導する

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	島 中 宗 一

**【講義概要・学習目標】**

文献演習は、文献の読解力、研究上のアイデアやヒント、社会的想像力などを獲得することがその目標である。

臨床系・福祉系のさまざまな専門職が台頭するなかで、それぞれの専門職はその固有の役割をどのように認識しているかについて、理念と現実の水準から検討する。フィールドを老人ケアに限定し、そこでかかわる専門職を中心に、家族支援、コラボレーションの視点から検討する。また、家族を支援することの意味を確認し、その理念に近づけるための専門職のあり方を検討する。

**【授業計画】**

テキストを中心に学生による報告と検討を積み重ねていく。

**【成績評価の方法】**

レポート

**【テキスト】**

島中宗一編『老人ケアのなかの家族支援：各専門職の役割とコラボレーション』ミネルヴァ書房



科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	矢 嶋 巖

**【講義概要・学習目標】**

高い関心が集まってきている環境問題は、身の回りから地球規模までの多様なスケールで生じている。相互に関連し合うさまざまな環境問題の一つ一つを正しく理解することが、この問題を研究対象とする上での第一歩となる。本演習では、環境社会学の基礎文献を購読することで、みなさんが社会学で環境問題を研究していくための一助となることを目標とする。

**【授業計画】**

教科書を章順に購読する。分担当担当者には、事前に指示した関係事項について調べて発表することも求める。また、夏休み・冬休みにレポートを課す。さらに、環境問題への理解を深めるために環境問題に関係する展示を行っている博物館の見学レポートも課すつもりである。なお、教科書の章立ては次の通りである。

1. 蛇口の水はどこから？：水と地域社会
2. 歴史を刻み込む大地：土地と地域社会
3. 生活の舞台としての家：住まいと環境
4. 食から見える環境：遠い食，近い食
5. ゴミ問題の社会学：人とモノの関係性から
6. 自然の中の遊び：生物多様性と子どもたち
7. 生活環境の比較社会学：アメリカ，アフリカ，日本の比較から
8. 生成する環境学をめざして

**【成績評価の方法】**

担当した箇所の報告状況，出席状況，博物館見学レポート，および春学期・秋学期末レポートの成績から総合的に算定する。

**【テキスト】**

嘉田由紀子『環境学入門9 環境社会学』岩波書店，2002年

**【参考文献】**

演習時に適宜示す。

科 目 名			
社会学科文献演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	山 内 乾 史

**【講義概要・学習目標】**

この文献演習では、教育の役割、学校の役割、学力低下を中心とする教育社会学についての、日本語の基本的文献を講読します。目的は社会的なものの方の見方、とらえ方のトレーニングということにあります。ゼミ形式での授業ですので、順番にテーマを与えて発表して頂きますが、発表者以外の方も積極的に参加し、どしどし発言してもらいたく思います。なお、関連するビデオの鑑賞・批評も行います。これらも、かなり視聴して頂くことになります。

特に今年度は社会の階層化と教育、フリーター・ニート問題の二つを中心に文献を講読します。

**【授業計画】**

授業で中心的に読むことを考えている文献は、以下の四つです。

前期

三浦展『下流社会』（光文社新書、2005年）、  
山田昌弘『希望格差社会』（筑摩書房、2004年）

後期

玄田有史・曲沼美恵『ニート』（幻冬社、2004年）  
佐藤洋作・平塚眞樹編『フリーター・ニートと学力』（明石書店、2005年）

**【成績評価の方法】**

発表内容と参加度によります。出席は評価の前提条件になります。

**【テキスト】**

上記文献を用います。ただし、文献は私の方でコピーしますので、購入の必要はありません。

**【参考文献】**

多数ありますので、授業中に指示します。

科 目 名			
<b>社会学科文献演習</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	渡 部 美穂子

**【講義概要・学習目標】**

就職商法といって、求人をかたつて人を集め、実際は商品を売るのが目的の悪質商法がある。こういう手合いにだまされる人が案外多いが、それはどうしてだろうか。他にもいろんな悪質商法がある。自己開発セミナーと称して、「あなたの生き方を問い直しませんか」と悩みをもった人を誘う疑似宗教のたぐいもそうだ。そこには、いわゆる社会的影響という社会心理学上の諸問題が豊富に含まれている。

この演習ではテキストの講読をつうじて、上に述べたような、私たちが知らない間に影響を受けるメカニズムに関する理論の理解を学ぶことを目的とする。

**【授業計画】**

教科書の章にしたがって、各自が分担の章の概要について、また、授業中に指示した重要関連文献について、レジュメを作成して発表する。章立ては以下のとおりである。

1. 影響力の武器 2. 返報性 3. コミットメントと一貫性
4. 社会的証明 5. 好意 6. 権威 7. 希少性
8. 手っとり早い影響力

**【成績評価の方法】**

発表内容と議論への参加の程度を考課の材料とする。

**【テキスト】**

R. B. チャルディーニ (社会行動研究会訳)  
『影響力の武器 ——なぜ、人は動かされるのか』 誠信書房、1991年

**【参考文献】**

適宜指示する。

科 目 名			
<b>社会言語学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 原 始 子

**【講義概要・学習目標】**

日常、「ことば」は人間にとって空気のような存在であるため、その変化や使用の様子に注意を向けずにいることが多い。社会的要因と深く関わりながら、「ことば」は様々に姿を変えて存在し、日々変化している。また、話し手は、所属する文化や社会の慣習にそって、「状況」、「相手」、「話題」にふさわしい「ことば」を選択している。このように、言語、変種、スタイルについて、誰が、どこで、どのように使い分けるかに注目し、分析していく研究が社会言語学である。

本講義では、前期は、多様な言語社会の形態を知ること重点を置き、マクロ的な側面を学習していく。後期は、言語の多様性と語用論的分析などミクロ的な研究を紹介しながら進めていく。専門的な内容に入るため、言語学、英語学の基礎知識があることが望ましい。社会学、文化人類学、社会心理学などと深く関わる学際的な学問領域なので、幅広い関心を持って、講義に取り組んでほしい。

**【授業計画】**

<前期>

言語と方言；国語、公用語、共通語、標準語  
「日本における第二公用語化」

アメリカ、オーストラリア、アジア、アフリカの社会言語学的言語状況

バイリンガルとダイグロシア

ビジンとクレオール

言語とアイデンティティ

言語計画

<後期>

言語変種の地域差、世代差、男女差、階層差

日本語アクセントの平板化

ら抜き言葉

強調の原理

ポライトネス理論と敬意表現

借用語

**【テキスト】**

『社会言語学への招待』（田中春美著）ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

『言葉とアイデンティティ』（小野原信善・大原始子編）三元社

科 目 名			
<b>社会思想史</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	坂 昌 樹

**【講義概要・学習目標】**

社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。学習の重点は、われわれの社会制度のもとにある西欧思想、ならびに日本人の考え方の違いを確認することにあります。思想とえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。

**【授業計画】**

- I. 導入：社会思想とはなにか
  - II. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観
  - III. 個人主義の確立：キリスト教による個人の析出、マキアヴェッリ、ルター
  - IV. 近代国家の構想：ホブズ、ロック、ルソー、(カント)
  - V. 市民社会の秩序：スミス、(J. S. ミル)
  - VI. (近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想)
- 講義の進捗状況によっては、上記（ ）つきの思想家や思想を省略することがあります。

**【成績評価の方法】**

学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。

**【テキスト】**

指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。

**【参考文献】**

必要があれば、講義中に指示します。

**【備考】**

連絡先：(研究室) アンデレ館 7階725室  
(tel) 0725-54-3131 (内線) 3725  
(Email) ban@andrew.ac.jp  
面談：在室中は、随時可能です。

科 目 名			
<b>社会心理学</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

社会心理学は、人間の行動を、社会との関わりに着目しつつ研究する学問です。大別すると、「個人の心理的な過程」に焦点を当てる心理学的アプローチと「マクロな視点から個人と社会の関わり」を研究する社会学的なアプローチの二つがみられます。

本講義は、社会学を学ぶ学生向けの講義であり、「社会学的な」社会心理学が中心となります。社会学を学んでいくうえで重要となる社会心理学の基礎的な概念や理論を身につけてもらうことが目標です。

「心理学的な」社会心理学や関連した心理学の成果について講義する場合もありますが、社会学的研究への寄与を常に念頭に置いたものです。社会心理学を学ぶことによって、心理学と社会学の差違と共通性を把握し、社会学への理解を深めることを目的としています。「純粹」な心理学の講義を期待される方には向きませんので、注意してください。

**【授業計画】**

以下のような内容を予定していますが、詳細については第1回の講義で説明します。

1. 社会心理学とは
2. 自己と社会化
3. 対人関係
4. 集団
5. 組織
6. 同調と逸脱
7. 集合行動
8. 普及と流行
9. マス・コミュニケーション
10. 情報化
11. 社会的性格
12. 社会意識
13. 若者の意識
14. 心理学化・心理主義化
15. まとめ

**【成績評価の方法】**

学期末試験、レポート、出席状況などによって総合的に評価します。

**【テキスト】**

必要な資料は各講義で配付する予定ですが、初回講義時に教科書を指定する可能性があります。

**【参考文献】**

山根常男ほか編 1979『テキストブック社会学(8)社会心理』有斐閣  
青池愼一・榎博文編 2004『現代社会心理学』慶応義塾大学出版会  
山岸俊男編 2001『社会心理学キーワード』有斐閣  
高木修編 1995『社会心理学への招待』有斐閣  
※その他、講義中に適宜紹介します。

さ  
行

科 目 名			
<b>社会政策総論</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	大 西 祥 恵

**【講義概要・学習目標】**

自らに適したライフ・スタイルを築いていこうとするのであれば、既存の労働や生活に関する諸制度を理解しておくことが重要だといえる。例えば、仕事を続けながら子育てをしようとするのであれば、性別にかかわらず労働基準に関する諸制度や育児休業制度について把握しておく必要があるだろう。また、生活の保障について考えるのであれば、老後などに関しては年金制度、セイフティ・ネットに関しては生活保護制度について知っておかなければならない。本講義の目標は、こうした社会政策に関する基礎的な制度をしっかりと理解することである。

**【授業計画】**

1. ガイダンス 社会政策研究の系譜
2. 労働基準 (1) 労働基準の出発点と現状
3. 労働基準 (2) 労働基準の現状と課題
4. 労働市場 (1) 労働市場政策の成立と展開
5. 労働市場 (2) 消極的労働市場政策から積極的労働市場政策への転換
6. 労働市場 (3) 新たな雇用システムへの展望
7. 企業社会 (1) 企業社会と日本の経営
8. 企業社会 (2) 人事管理～会社法モデルと共同体モデル
9. 企業社会 (3) 今後の展望
10. 年金 (1) 年金制度とその財政方式
11. 年金 (2) 八五年改革の内実
12. 年金 (3) 八九年改革の内実
13. 年金 (4) 九四年以降の改革の内実と今後の課題
14. 医療 (1) 医療制度と診療報酬支払方式
15. 医療 (2) 健康保険制度と国民健康保険制度の成立と展開
16. 医療 (3) 介護の社会化
17. 公的扶助 (1) 生活保護制度の成立と展開
18. 公的扶助 (2) 生活保護制度の「適正化」問題
19. 公的扶助 (3) 外国人に対する生活保護制度
20. 公的扶助 (4) 不定住者に対する生活保護制度
21. 家族的責任 (1) アンペイド・ワークとしての家事労働
22. 家族的責任 (2) ジェンダー分業と労働者家族
23. 家族的責任 (3) ジェンダー分業と社会保障制度
24. 家族的責任 (4) 少子高齢化と家族的責任

**【成績評価の方法】**

定期試験、講義中におこなう小テスト、出席状況および出席態度などにて評価する。

**【テキスト】**

玉井金五・大森真紀編著『新版 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2000年（本体2100円＋税）。

**【参考文献】**

講義中に指示することがある。

科 目 名			
<b>社会調査A</b>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	岩 田 考

**【講義概要・学習目標】**

この科目では、『社会調査入門』をめざして、社会調査の目的やその意義、調査の歴史、種類と実例、具体的な方法論、調査実施上の倫理など、基本的な事項について学ぶ。

社会学の学習には、さまざまな分野の学説や理論の習得とともに、データ収集と分析の技術としての社会調査法の習得が不可欠である。なかでも、マス・メディアで発表されるデータをうのみにせず、その作成過程（＝調査過程）に批判的な目を向けるリサーチ・リテラシーの獲得、および、社会学の各専門分野に共通の分析視角（集団と集団との比較を通して社会の構造にせまる）の獲得に重点をおきたい。

それは、演習での卒業論文作成や、社会調査実習ばかりでなく、信頼のおけるデータにもとづいて社会情勢を分析・判断し、行動する将来の社会人・市民の養成にも、つながるものである。

**【授業計画】**

1. 現代社会と社会調査
2. 社会調査の歴史
3. 社会調査が抱える諸問題と調査の倫理
4. 社会調査の種類と既存データの活用
5. 測定と分析の基礎 (1) 概念・操作的定義・変数
6. 測定と分析の基礎 (2) 仮説の構成
7. 測定と分析の基礎 (3) 記述と説明
8. 量的調査 (1) 種類と方法
9. 量的調査 (2) サンプリングの論理
10. 量的調査 (3) 質問文の作成
11. 量的調査 (4) 調査票調査の実際
12. 質的調査 (1) 聴き取り調査
13. 質的調査 (2) ドキュメント分析
14. 質的調査 (3) 参与観察
15. 調査結果の読み方

**【成績評価の方法】**

出席状況、レポートなどの提出物、期末試験の結果などを総合して評価します。

**【テキスト】**

大谷信介ほか編著 1999『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

- ダレル・ハウ 1968『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス  
 谷岡一郎 2000『「社会調査」のウソ』文春新書  
 森岡清志編著 1998『ガイドブック社会調査』日本評論社  
 佐藤郁哉 2002『フィールドワークの技法』新曜社  
 ※その他、講義中に適宜紹介します。